

第3章 対象事業実施区域及びその周囲の概況

3.1 自然的状況

3.1.1 気象、大気質、騒音、振動その他大気に係る環境の状況

(1) 気象

対象事業実施区域に最も近い気象観測所（気温・降水量・風・日照・雪を計測している観測所）である岩手松尾観測所（八幡平市野駄地区、対象事業実施区域から南約 2.2km）における気象観測結果を表 3.1-1 及び表 3.1-2 に、風配図を図 3.1-1 に、対象事業実施区域及びその周辺の気象観測所の位置を図 3.1-2 に示す。

年平均気温の 10 年間の平均値は 9.5℃であり、年降水量の平均は 1060.0mm である。

また、平成 27 年の年平均気温は 10.3℃であり、月別の平均気温は 7 月が最も高く、1 月が最も低い。年間降水量は 958.0mm であり、8 月が最も多く、1 月が最も少ない。平均風速は 2 月から 6 月にかけて若干高くなる傾向があり、風向は 1～3 月及び 9～12 月は西～西北西の風が、4～8 月は東南東～南南東の風が卓越している。

表 3.1-1 気象概況（岩手松尾観測所）

項目 年	気温(℃)			年降水量 (mm)	風速(m/s)		最多 風向	日照時間 (h)	雪(cm)	
	年平均 気温	最高 気温	最低 気温		平均 風速	最大 風速			降雪の 合計	最深 積雪
平成 18 年	9.3	34.0	-18.5	1087.0	1.8	10.0	西北西	1466.2	496	62
平成 19 年	9.4	35.1	-11.8	1191.0	1.6	8.0	西北西	1729.0	264	33
平成 20 年	9.4	32.0	-16.2	868.5	1.7	10.0	西北西	1729.5	400	39
平成 21 年	9.5	31.5	-17.8	1038.0	1.8	10.8	西北西	1683.6	409	58
平成 22 年	10.0	35.5	-18.7	1406.0	2.0	12.8	西北西	1555.8	395	54
平成 23 年	9.3	33.7	-17.8	1030.0	2.1	13.8	南東	1695.5	397	75
平成 24 年	9.4	35.2	-18.4	860.5	2.1	12.5	西北西	1680.2	416	47
平成 25 年	9.3	33.5	-17.3	1172.0	2.1	14.4	南東	1643.8	285	36
平成 26 年	9.2	33.0	-17.3	988.5	2.0	12.4	西北西	1774.6	393	32
平成 27 年	10.3	35.5	-13.4	958.0	2.1	12.8	西北西	1860.4	324	37
平均	9.5	33.9	-16.7	1060.0	1.9	11.7	—	1681.9	378	47

資料)気象統計情報 (<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>)

表 3.1-2 平成 27 年の月別の気象状況（岩手松尾観測所）

項目 月	気温(°C)			降水量 (mm)	風速(m/s)		最多 風向	日照時間 (h)	雪(cm)	
	月平均 気温	最高 気温	最低 気温		平均 風速	最大 風速			降雪の 合計	最深 積雪
1月	-2.3	5.2	-13.0	27.5	2.0	9.6	西北西	101.6	78	31
2月	-0.6	8.8	-13.0	38.5	2.6	10.9	西北西	119.8	74	37
3月	3.3	17.2	-6.9	107.5	2.4	10.1	西北西	172.6	52	17
4月	9.5	28.8	-4.3	72.0	2.8	12.8	南東	200.3	0	0
5月	15.6	30.2	1.6	46.0	2.8	9.2	南南東	257.8	0	0
6月	18.3	28.7	6.4	86.0	2.3	9.3	南南東	180.1	0	0
7月	22.7	34.6	11.3	78.5	1.5	7.8	南東	161.5	0	0
8月	22.1	35.5	14.1	172.0	1.9	7.8	東南東	134.9	0	0
9月	17.3	27.9	5.6	126.0	1.6	7.8	西北西	139.2	0	0
10月	10.2	21.5	-2.3	70.0	2.2	11.5	西北西	159.9	0	0
11月	6.3	18.3	-3.1	67.5	1.6	10.3	西北西	103.4	0	0
12月	0.7	10.8	-13.4	66.5	1.9	9.4	西	129.3	26	13

資料) 気象統計情報 (<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>)

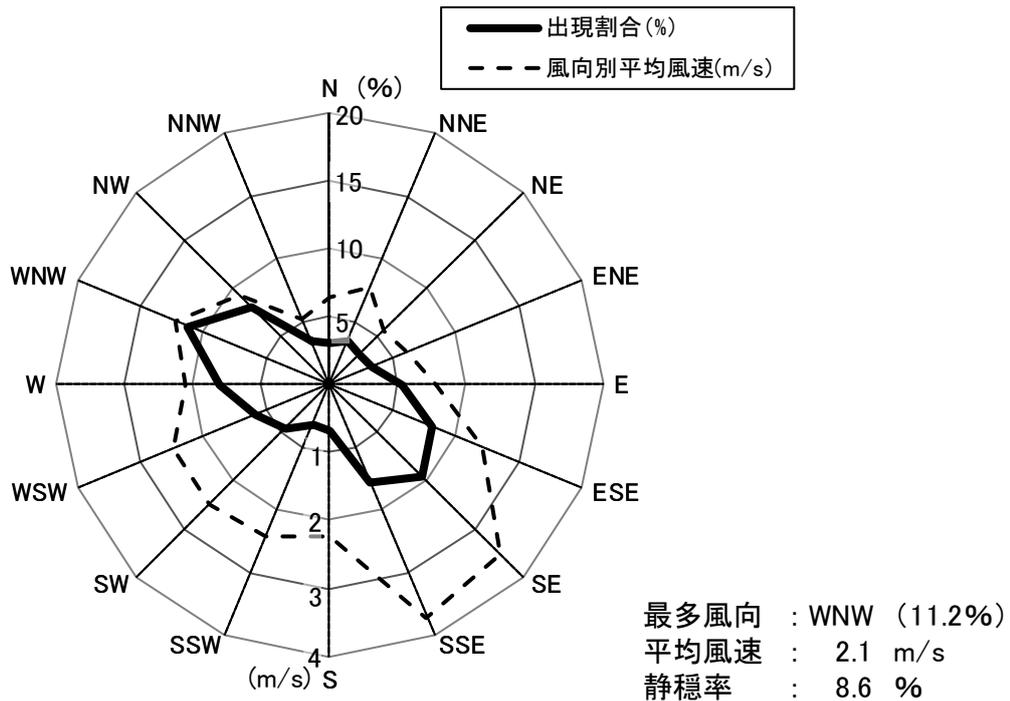
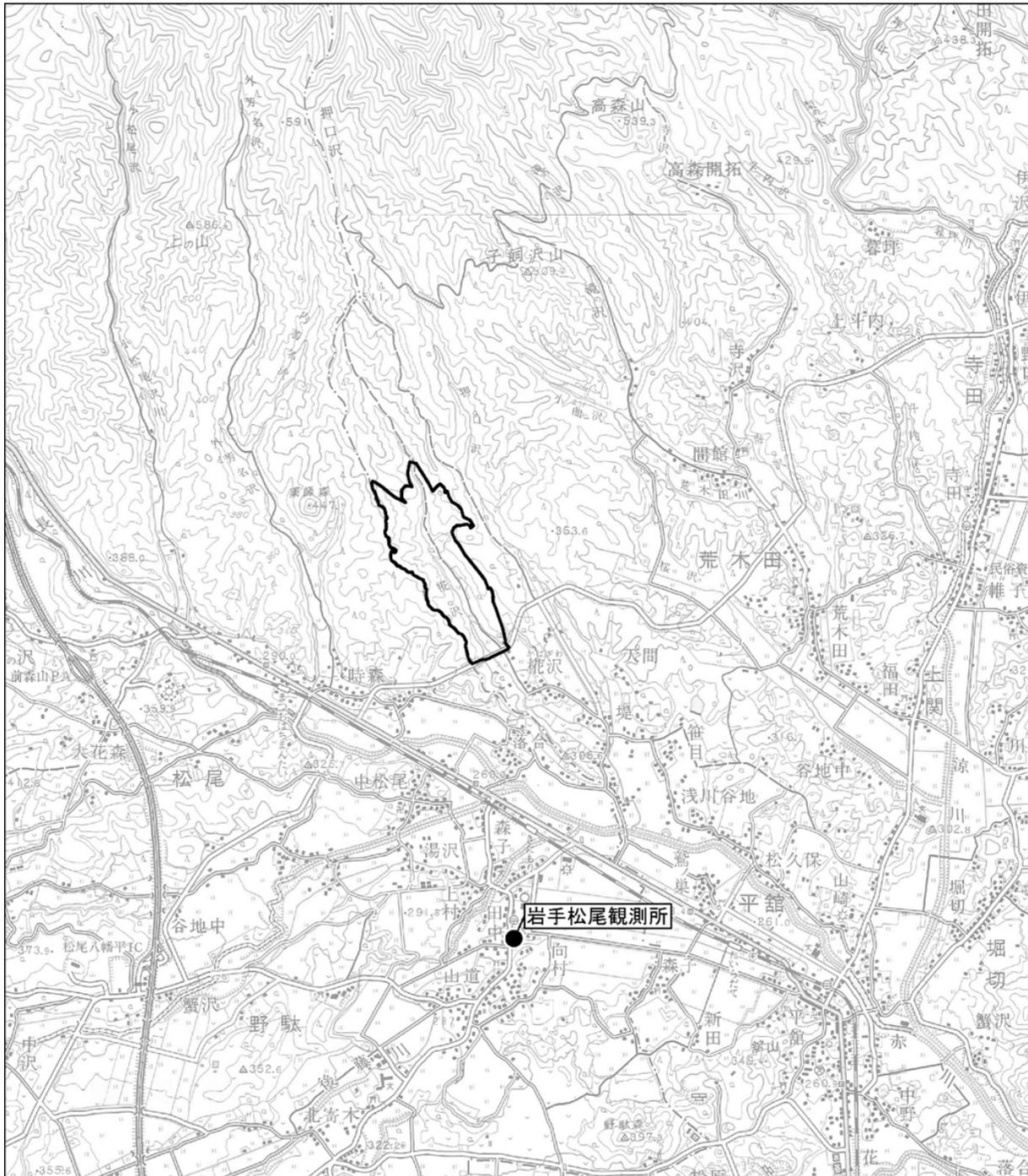


図 3.1-1 平成 27 年の風配図



凡例



対象事業実施区域



気象観測所



1:50,000

0 500 1,000 2,000
m

背景図) 国土地理院「1/50,000 地形図 (沼宮内、荒尾)」

図 3.1-2 気象観測所位置図

(2) 大気質

1) 一般大気環境

対象事業実施区域及びその周辺に大気汚染常時監視測定局は存在しないが、最も近い大気汚染常時監視測定局として、滝沢市に一般大気測定局の巣子測定局（対象事業実施区域から南南東約 22km）が存在する。巣子測定局では、二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質、微小粒子状物質の測定が行われている。

巣子測定局における大気質測定結果を表 3.1-3～表 3.1-6 に、巣子測定局の位置を図 3.1-3 に示す。

各測定局における平成 22～26 年度の測定結果は、全ての項目で環境基準を満足していた。

表 3.1-3 巣子測定局における二酸化硫黄測定結果

測定年度	項目 年平均値 (ppm)	日平均値の 2%除外値 (ppm)	2日連続 の有無	環境基準	
				長期的 評価	短期的 評価
平成 22 年度	0.001	0.002	無	○	○
平成 23 年度	0.001	0.002	無	○	○
平成 24 年度	0.001	0.002	無	○	○
平成 25 年度	0.001	0.002	無	○	○
平成 26 年度	0.001	0.002	無	○	○

備考)1. 環境基準は、「1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm 以下であり、かつ、1 時間値が 0.1ppm 以下であること」である。

2. 長期的評価は、「日平均値の 2%除外値が 0.04ppm 以下で、かつ、日平均値が 0.04ppm を超えた日が 2 日以上連続していないこと。」を満足した場合は、「○」とし、満足しない場合は、「×」とした。

3. 短期的評価は、「1 時間値が 0.1ppm 以下で、かつ、日平均値が 0.04ppm 以下であること。」を満足した場合は、「○」とし、満足しない場合は、「×」とした。

資料)公共用水域水質 地下水質 大気汚染状況 ダイオキシン類測定結果(平成 22 年～26 年、岩手県)

表 3.1-4 巣子測定局における二酸化窒素測定結果

測定年度	項目 年平均値 (ppm)	日平均値の 年間 98%値 (ppm)	環境基準
平成 22 年度	0.007	0.019	○
平成 23 年度	0.006	0.017	○
平成 24 年度	0.007	0.020	○
平成 25 年度	0.006	0.017	○
平成 26 年度	0.005	0.017	○

備考)1. 環境基準は、「1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内又はそれ以下であること。」である。

2. 評価は、「年間にわたる 1 日平均値のうち、低い方から 98%に相当する値 (98%値) が、0.06ppm 以下に維持されること。」を満足した場合は、「○」とし、満足しない場合は、「×」とした。

資料)公共用水域水質 地下水質 大気汚染状況 ダイオキシン類測定結果(平成 22～26 年、岩手県)

表 3.1-5 巣子測定局における浮遊粒子状物質測定結果

測定年度	項目 年平均値 (mg/m ³)	日平均値の 2%除外値 (mg/m ³)	2日連続 の有無	環境基準	
				長期的 評価	短期的 評価
平成 22 年度	0.017	0.040	無	○	○
平成 23 年度	0.016	0.037	無	○	○
平成 24 年度	0.016	0.037	無	○	○
平成 25 年度	0.016	0.040	無	○	○
平成 26 年度	0.017	0.044	無	○	○

備考)1. 環境基準は、「1 時間値の 1 日平均値が 0.10 mg/m³以下であり、かつ、1 時間値が 0.20 mg/m³以下であること。」である。

2. 長期的評価の評価方法は、「日平均値の 2%除外値が 0.10mg/m³以下で、かつ、日平均値が 0.10mg/m³を超えた日が 2 日以上連続していないこと」を満足した場合は、「○」とし、満足しない場合は、「×」とした。

3. 短期的評価は、「1 時間値が 0.20mg/m³以下で、かつ、日平均値が 0.10mg/m³以下であること。」を満足した場合は、「○」とし、満足しない場合は、「×」とした。

資料)公共用水域水質 地下水質 大気汚染状況 ダイオキシン類測定結果(平成 22～26 年、岩手県)

表 3.1-6 巣子測定局における微小粒子状物質測定結果

測定年度	項目 年平均値 (μg/m ³)	日平均値の 年間 98%値 (μg/m ³)	環境基準	
			長期基準	短期基準
平成 22 年度	—	—	—	—
平成 23 年度	10.5	20.3	○	○
平成 24 年度	11.6	26.1	○	○
平成 25 年度	11.6	32.2	○	○
平成 26 年度	12.2	31.3	○	○

備考)1. 環境基準は、「1 年平均値が 15μg/m³以下(長期基準)であり、かつ、1 日平均値が、35μg/m³以下(短期基準)であること。」である。

2. 長期基準の評価は、「年平均値が 15μg/m³以下であること。」を満足した場合は、「○」とし、満足しない場合は、「×」とした。

3. 短期基準の評価は、「年間にわたる 1 日平均値のうち、低い方から 98%に相当する値(98%値)が 35μg/m³以下であること。」を満足した場合は、「○」とし、満足しない場合は、「×」とした。

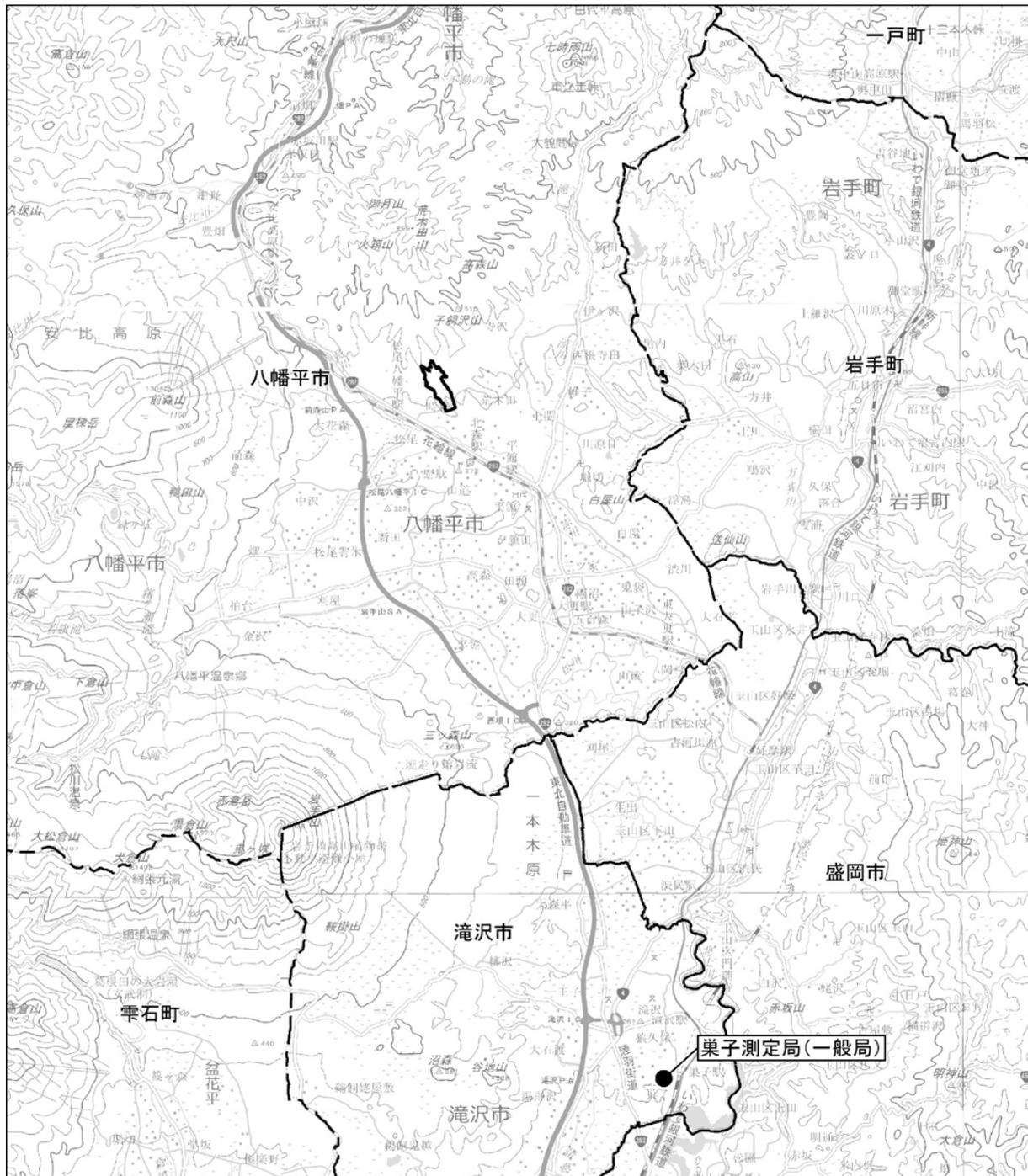
資料)公共用水域水質 地下水質 大気汚染状況 ダイオキシン類測定結果(平成 22～26 年、岩手県)

2) ダイオキシン類

平成 26 年度は、岩手県内において一般環境 5 地点、沿道環境 1 地点、発生源(廃棄物焼却施設)周辺 5 地点で大気質中のダイオキシン類濃度測定が行われている。

対象事業実施区域のある八幡平市では、発生源周辺として八幡平市堀切地区で測定が行われている。

測定結果は、年平均値 0.0058pg-TEQ/m³であり、環境基準(0.6pg-TEQ/m³以下)を満足していた。



- 凡例
-  対象事業実施区域
 -  市町村界
 -  大気常時監視局



1:200,000

0 2.5 5 10 km

背景図) 国土地理院「1/200,000 地形図(弘前、八戸、秋田、盛岡)」

図 3.1-3 大気汚染常時監視測定局位置図

(3) 騒音

対象事業実施区域のある八幡平市では、自動車騒音について市内の幹線道路の11区間において評価が行われている。

八幡平市における環境基準の達成状況を表3.1-7に示す。

平成26年の測定結果は、全ての区間で環境基準を満足していた。

表 3.1-7 自動車騒音に関する環境基準の達成状況

市町村	評価 区間数 (区間)	評価区間 延長 (km)	評価箇所	住居数戸数 (戸)	昼夜間 とも 基準値 以下 (%)	昼間 のみ 基準値 以下 (%)	夜間 のみ 基準値 以下 (%)	昼夜間 とも 基準値 超過 (%)
八幡平市	11	8.5	幹線交通を担う道路に 近接する空間	421	100	0	0	0
			非近接空間	478	100	0	0	0

備考) 基準値以下の算出は、区間延長内の評価対象住居等の戸数の基準達成割合により算出した。
資料) 公共用水域水質 地下水質 大気汚染状況 ダイオキシソ類測定結果(平成26年、岩手県)

(4) 振動

対象事業実施区域及びその周辺で振動調査の実施記録は確認されなかった。

(5) 悪臭

対象事業実施区域及びその周辺で悪臭調査の実施記録は確認されなかった。

(6) 放射能

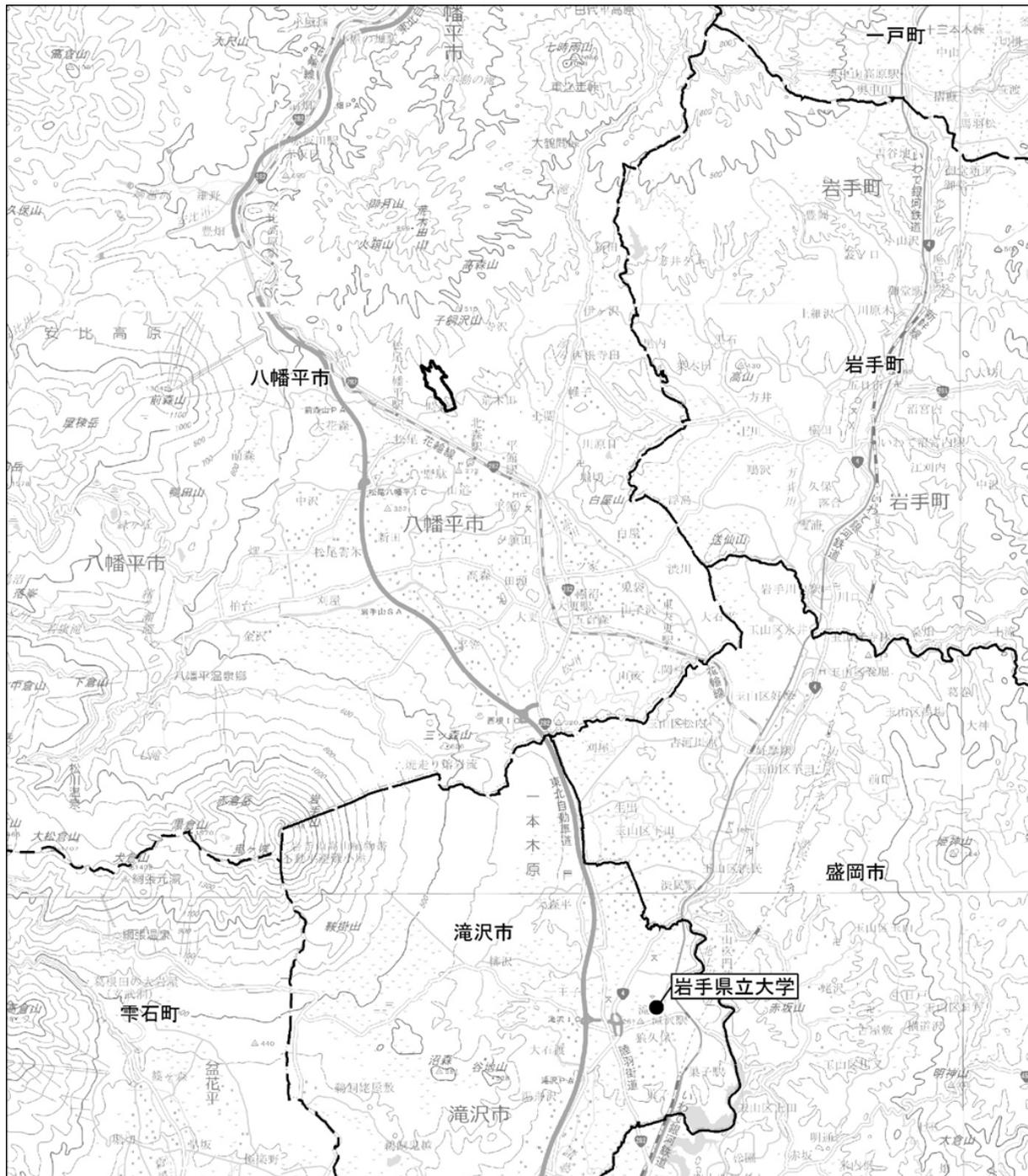
岩手県では平成24年3月15日より、花巻市、奥州市、釜石市、久慈市、二戸市、滝沢市に空間放射線量のモニタリングポストを設置し、放射線量率の測定を行っている。

対象事業実施区域の最も近くに設置されている滝沢市の岩手県立大学(対象事業実施区域から東約20km)における放射線量率の測定結果を表3.1-8に、モニタリングポストの位置を図3.1-4に示す。

表 3.1-8 滝沢市における放射線量率測定結果(平成24年3月~平成26年度)

測定年月	モニタリングポスト(nGy/h)		
	最低値	最高値	平均値
平成24年3月(設置時)	41	95	53
平成24年度	22	104	52
平成25年度	18	108	45
平成26年度	25	52	41

資料) 公共用水域水質 地下水質 大気汚染状況 ダイオキシソ類測定結果(平成24~26年、岩手県)



- 凡例
-  対象事業実施区域
 -  市町村界
 -  モニタリングポスト



背景図) 国土地理院「1/200,000 地形図 (弘前、八戸、秋田、盛岡)」

図 3.1-4 空間放射線のモニタリングポスト位置図

3.1.2 水象、水質、水底の底質その他の水に係る環境の状況

(1) 水象

対象事業実施区域及びその周辺の河川の位置を図 3.1-5 に示す。

対象事業実施区域には柁沢が流れ、押口沢と合流し、赤川、松川、北上川へと流入する。

(2) 水質

対象事業実施区域及びその周辺の水質調査地点の位置を図 3.1-5 に示す。

処理水の放流先となる赤川では富士見橋と東大更橋の 2 地点で水質調査が実施されており、生活環境項目、健康項目の一部の項目について測定されている。測定結果を表 3.1-9 に示す。

測定結果は、東大更橋については、測定された全ての項目について環境基準を満足していた。富士見橋については、pH が低く 3.4~3.7 となっていた。

なお、公共用水域のダイオキシン類については、平成 26 年度は岩手県内において 35 地点で測定が行われているが、対象事業実施区域及びその周辺では測定されていない。

表 3.1-9 平成 26 年度の水質測定結果

項目		単位	赤川		環境基準値
			富士見橋 (類型指定なし)	東大更橋 (類型指定なし)	
生活環境項目	pH	—	3.4~3.7	7.1~7.5	6.5~8.5 (AA 類型相当)
	SS	mg/L	2	16	25 以下 (AA 類型相当)
健康項目	カドミウム	mg/L	0.0015	—	0.003mg/L 以下
	鉛	mg/L	0.0025	<0.002	0.01mg/L 以下
	砒素	mg/L	0.0034	<0.001	0.01mg/L 以下
	ジクロロメタン	mg/L	—	<0.002	0.02mg/L 以下
	四塩化炭素	mg/L	—	<0.0002	0.002mg/L 以下
	1,2-ジクロロエタン	mg/L	—	<0.0004	0.004mg/L 以下
	1,1-ジクロロエチレン	mg/L	—	<0.002	0.1mg/L 以下
	シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	—	<0.002	0.04mg/L 以下
	1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	—	<0.0005	1 mg/L 以下
	1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	—	<0.0006	0.006mg/L 以下
	トリクロロエチレン	mg/L	—	<0.001	0.01mg/L 以下
	テトラクロロエチレン	mg/L	—	<0.0005	0.01mg/L 以下
ほう素	mg/L	—	<0.1	1mg/L 以下	

備考)1. 「—」は測定がされていないことを表す。

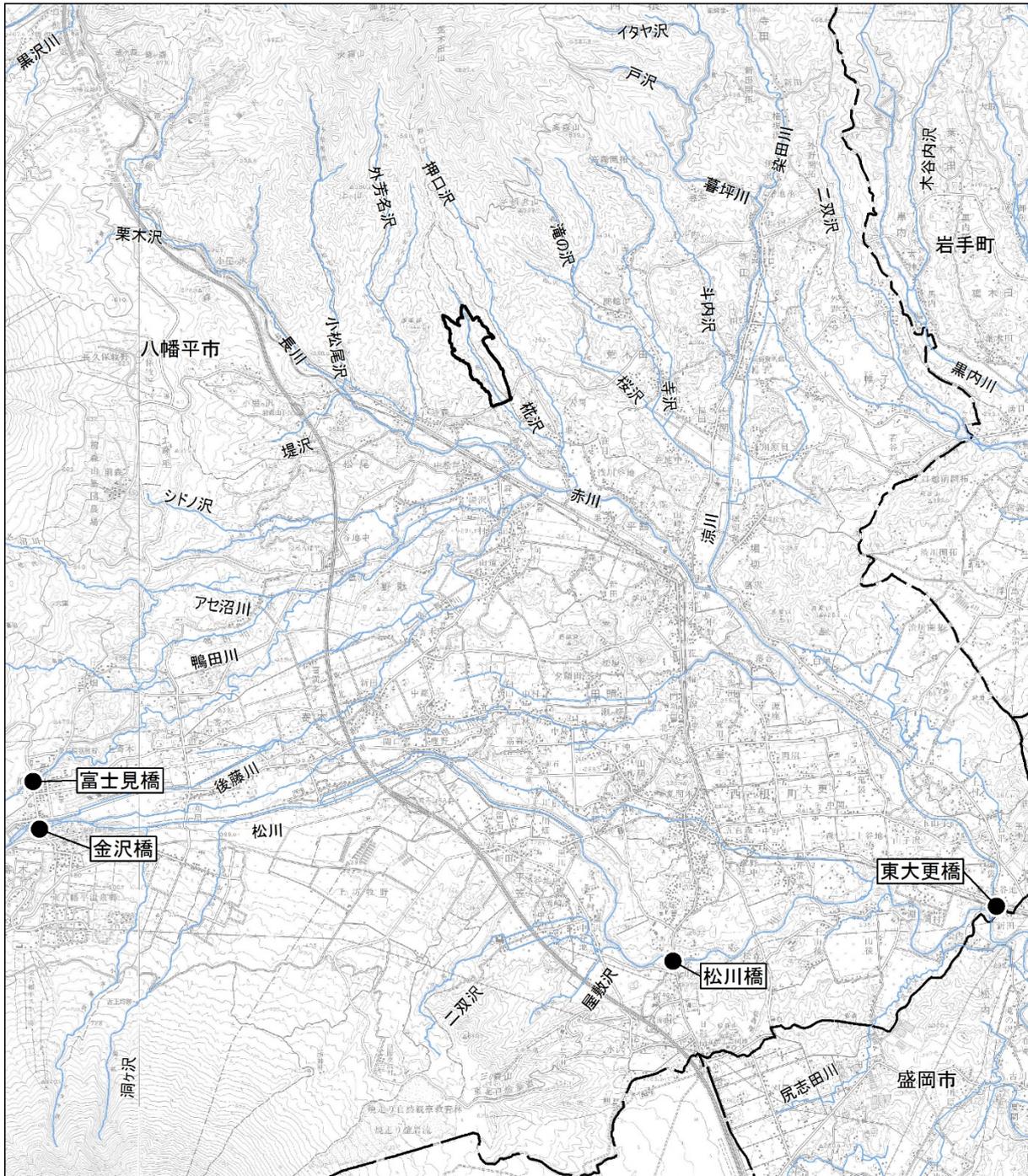
2. 富士見橋については国土交通省、東大更橋については岩手県により測定されている。そのため測定項目が異なる。

3. 赤川については類型指定されていないが、参考までに AA 類型の環境基準値を記載した。

資料)公共用水域水質 地下水質 大気汚染状況 ダイオキシン類測定結果(平成 26 年、岩手県)

(3) 水底の底質

岩手県では、平成 26 年度は岩手県内 13 地点で公共用水域の底質測定が、35 地点でダイオキシン類の測定が行われているが、対象事業実施区域及びその周辺では測定されていない。



凡例

-  対象事業実施区域
-  市町村界
-  河川
-  水質測定地点



1:100,000



背景図) 国土地理院「1/100,000 地形図 (田山、荒尾、沼宮内、八幡平)」

図 3.1-5 対象事業実施箇所周辺の河川及び水質調査地点位置図

(4) 地下水

対象事業実施区域のある八幡平市では、平成 26 年度に概況調査 2 地点、継続監視調査 7 地点の計 9 地点において地下水質の汚染状況に関する調査が実施されている。測定結果を表 3.1-10 に示す。

砒素に関しては、継続監視調査 5 地点において環境基準値を超過している。

表 3.1-10 (1) 平成 26 年度地下水質測定結果（概況調査）

項目（単位）	地区名	大更	寺田	環境基準値
	カドミウム	mg/L	ND	ND
鉛	mg/L	ND	ND	0.01 mg/L 以下
六価クロム	mg/L	ND	ND	0.05 mg/L 以下
砒素	mg/L	ND	ND	0.01 mg/L 以下
総水銀	mg/L	ND	ND	0.0005 mg/L 以下
アルキル水銀	mg/L	不検出	不検出	不検出
ジクロロメタン	mg/L	ND	ND	0.02 mg/L 以下
四塩化炭素	mg/L	ND	ND	0.002 mg/L 以下
1,2-ジクロロエタン	mg/L	ND	ND	0.004 mg/L 以下
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	ND	ND	0.1 mg/L 以下
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	ND	ND	1 mg/L 以下
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	ND	ND	0.006 mg/L 以下
トリクロロエチレン	mg/L	ND	ND	0.03 mg/L 以下
テトラクロロエチレン	mg/L	ND	ND	0.01 mg/L 以下
ベンゼン	mg/L	ND	ND	0.01 mg/L 以下
セレン	mg/L	ND	ND	0.01 mg/L 以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/L	6.5	2.4	10 mg/L 以下
1,2-ジクロロエチレン	mg/L	ND	ND	0.04 mg/L 以下

備考)1. 「ND」は定量下限値以下であることを表す。

2. 概況調査とは地域の全体的な地下水質の把握を目的とした調査である。

資料)公共用水域水質 地下水質 大気汚染状況 ダイオキシン類測定結果(平成 26 年、岩手県)

表 3.1-10 (2) 平成 26 年度地下水質測定結果（継続監視調査）

項目（単位）	地区名	野駄1	野駄2	荒屋新町	石名坂	亦戸川原	下河原1	下河原2	環境基準値
	鉛	mg/L	—	—	0.003	—	—	—	—
砒素	mg/L	0.011	0.012	—	0.015	0.021	0.017	0.007	0.01 mg/L 以下

備考)1. 「—」は測定がされていないことを表す。

2. 継続調査は、過去に比較的高濃度（原則として環境基準の 1/2 以上）の汚染物質が検出された井戸を対象に実施する調査である

資料)公共用水域水質 地下水質 大気汚染状況 ダイオキシン類測定結果(平成 26 年、岩手県)

3.1.3 土壌及び地盤の状況

(1) 土壌汚染

平成 26 年度は、岩手県内において一般環境 7 地点及び発生源周辺 5 地点で土壌中のダイオキシン濃度測定が行われているが、対象事業実施区域のある八幡平市では測定は実施されていない。

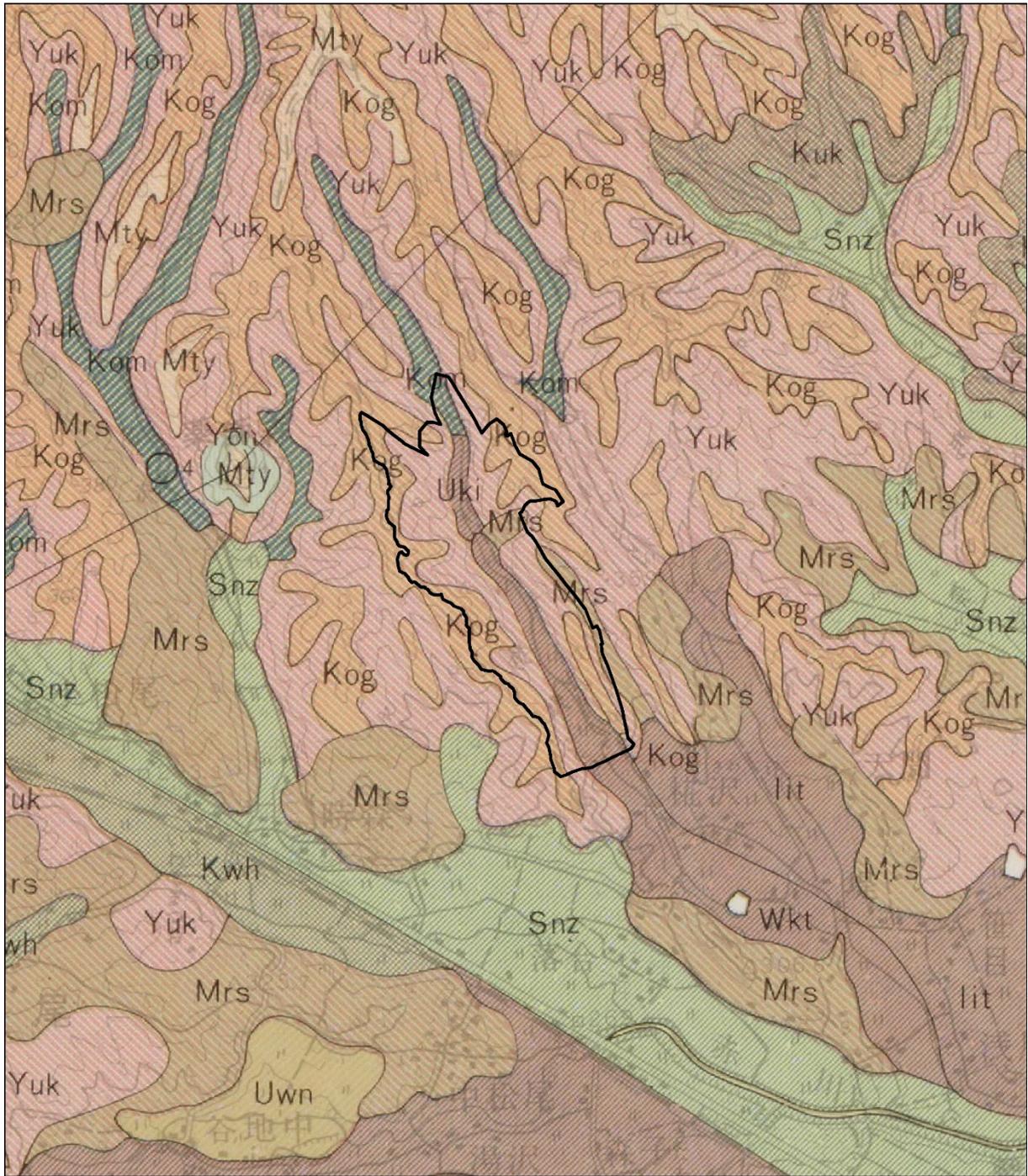
(2) 地盤

「平成 27 年度 岩手県環境報告書」によれば、岩手県内では地盤沈下は発生していない。

(3) 土壌

対象事業実施区域及びその周辺の土壌図を図 3.1-6 に示す。

対象事業実施区域及びその周辺は山裾の谷部となっており、対象事業実施区域は山地及び丘陵性の土壌である雪谷統 (Yuk)、浮島統 (Uki)、小軽米統 (Kog)、台地及び低地の土壌である涌津統 (Wkt)、村崎野統 (Mrs) の土壌となっている。



凡例



対象事業実施区域

山地および丘陵性の土壌		台地および低地の土壌	
黒ボク土壌	黒ボク土壌	厚層黒ボク土壌	厚層黒ボク土壌
Yuk 雪谷統	Mty 曲田山統	Kuk 上浮島統	川畑統
グライ土壌	グライ土壌	黒ボク土壌	黒ボク土壌
小松尾沢統	Yon 米内川統	Mca 村崎野統	Uwn 上野原統
淡色黒ボク土壌	淡色黒ボク土壌	多湿黒ボク土壌	多湿黒ボク土壌
Kog 小軽米統	浮島統	飯豊統	涌津統
		細粒灰色低地土壌	真城統

資料) 1/50,000 土地分類基本調査 (http://nrb-www.mlit.go.jp/kokjo/inspect/landclassification/land/1_national_map_5-1.html)



1:25,000



図 3.1-6 土壌図

3.1.4 地形及び地質の状況

(1) 地形

対象事業実施区域及びその周辺の地形図を図 3.1-7 に示す。

対象事業実施区域は、火山地（小起伏火山地）、低地（谷底平野及び氾濫平野）となっており、周辺にはその他に丘陵地（丘陵地Ⅱ）等が分布する。

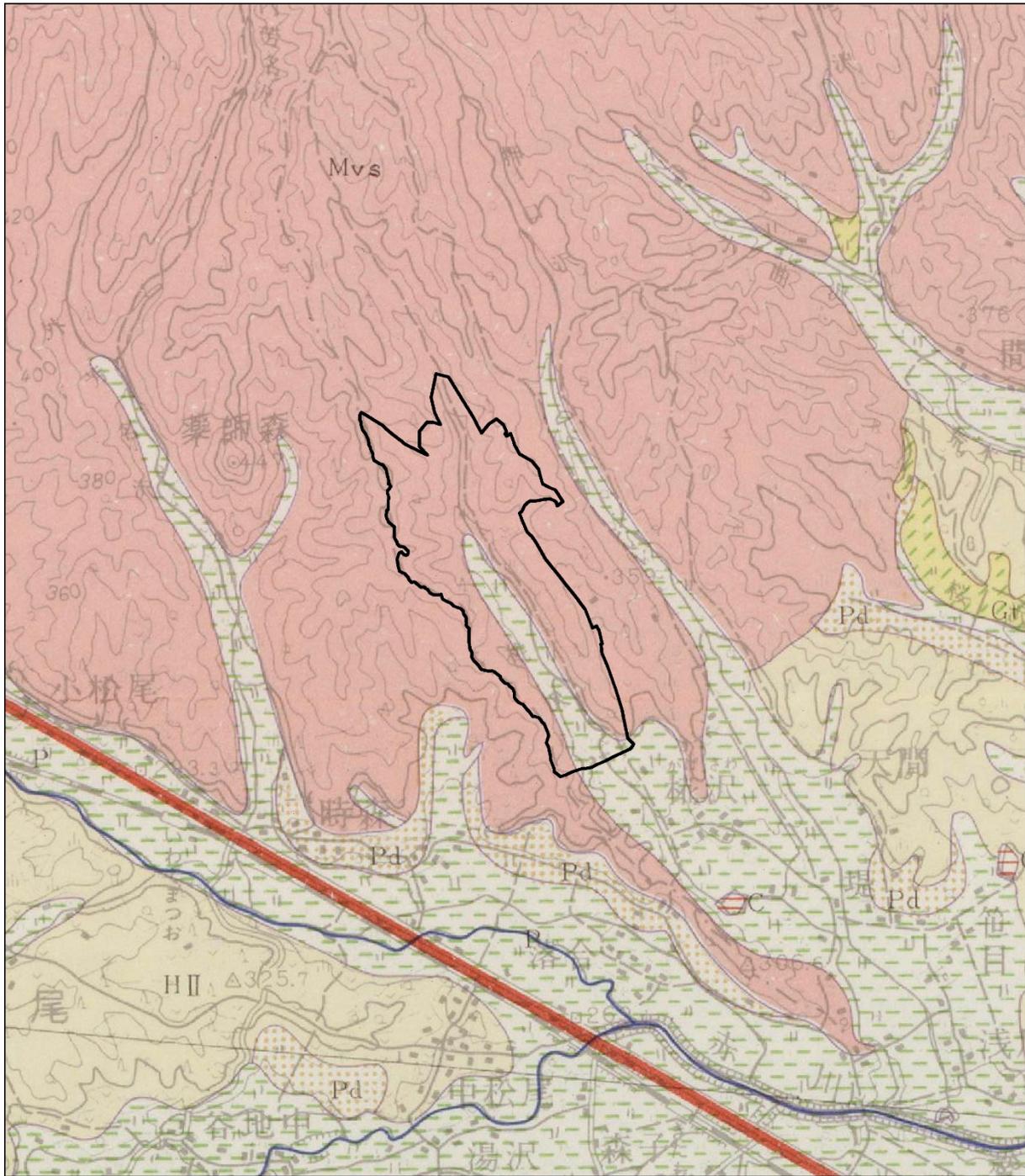
(2) 地質

対象事業実施区域及びその周辺の地質図を図 3.1-8 に示す。

対象事業実施区域及びその周辺は、安山岩質岩石、砂礫、火山砕屑物等が分布する。

(3) 重要な地形・地質

「第3回自然環境保全基礎調査 岩手県自然環境情報図（平成元年）」によれば、対象事業実施区域及びその周辺に重要な地形及び地質は存在しない。



凡例



対象事業実施区域

地形分類図	
山地	台地
山麓地及び他の緩斜面	砂礫段丘Ⅲ
火山地	低地
小起伏火山地	谷底平野及び氾濫平野
丘陵地	その他
丘陵地Ⅱ	人工改変地



1:25,000

0 250 500 1,000 m

資料) 1/50,000 土地分類基本調査 (http://nrb-www.mlit.go.jp/kokjo/inspect/landclassification/land/l_national_map_5-1.html)

図 3.1-7 地形分類図



凡例



対象事業実施区域

表層地質図	
未固結堆積物	火山性岩石
 g1 砂礫	 Py 火山碎屑物
 g2 砂礫	 Ab 安山岩質岩石



1:25,000



資料) 1/50,000 土地分類基本調査 (http://nrb-www.mlit.go.jp/kokjo/inspect/landclassification/land/l_national_map_5-1.html)

図 3.1-8 表層地質図

3.1.5 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況

(1) 動物

対象事業実施区域及びその周辺に生息する動物の情報に関して、収集した文献と情報を整理した範囲を表 3.1-11 に示す。

なお、重要種の選定根拠及びカテゴリーは表 3.1-12 に示すとおり設定した。

表 3.1-11 収集した文献と情報の整理範囲等

No.	文献名	対象項目						情報の整理範囲
		哺乳類	鳥類	は虫類・両生類	昆虫類	魚類	底生動物	
1	「第2～6回自然環境保全基礎調査」 (環境省自然環境局)	○	○	○	○	○	○	八幡平市
2	「いわてレッドデータブック:岩手の希少な野生生物(2014年版)」 (平成26年、岩手県環境生活部自然保護課 編)	○	○	○	○	○	○	八幡平市
3	「特殊鳥類生息実態調査報告書」(平成5年、岩手県環境保健部自然保護課 編)		○					八幡平市
4	「小型ワシタカ類生息実態調査報告書」 (平成7年、岩手県環境保健部自然保護課 編)		○					八幡平市
5	「フクロウ科生息実態調査報告書」 (平成10年、岩手県環境保健部自然保護課 編)		○					八幡平市
6	「野生生物保護対策事業調査報告書-イヌワシ生息状況調査-」 (平成11年、岩手県環境保健部自然保護課 編)		○					八幡平市
7	「岩手の蝶:第36回企画展図録」 (平成5年、岩手県立博物館 編)				○			八幡平市
8	「岩手の蝶2」 (平成24年、岩手県立博物館 編)				○			八幡平市
9	「岩手の蝶3」 (平成24年、岩手県立博物館 編)				○			八幡平市
10	「安代町史 民俗編」 (平成21年、安代町史編さん委員会 編)	○	○	○	○	○	○	旧安代町
11	「西根町史 上巻」 (昭和61年、西根町史編纂委員会 編)	○	○	○	○			旧西根町

表 3.1-12 重要種の選定基準及びカテゴリー

No.	重要種の選定基準	カテゴリー
1	文化財保護法(同法に基づく地方公共団体の文化財保護条例を含む) 【昭和 25 年 5 月 30 日法律第 214 号】	特天:国指定特別天然記念物 国天:国指定天然記念物 県天:県指定天然記念物 市町村天:市町村指定天然記念物
2	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律 【平成 4 年 6 月 5 日法律第 75 号】	国内:国内稀少野生動植物種 特定:特定国内稀少野生動植物種 緊急:緊急指定種
3	岩手県希少野生動植物の保護に関する条例 【平成 14 年 3 月 29 日条例第 26 号】	指定:指定希少野生動植物 特定:特定希少野生動植物
4	環境省レッドリスト 2015 【環境省 平成 27 年 9 月公表】	EX:絶滅 わが国ではすでに絶滅したと考えられる種 EW:野生絶滅 飼育・栽培下でのみ存続している種 CR:絶滅危惧 IA 類 ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種 EN:絶滅危惧 IB 類 IA 類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種 VU:絶滅危惧 II 類 絶滅の危機が増大している種 NT:準絶滅危惧 現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種 DD:情報不足 評価するだけの情報が不足している種 LP:地域個体群 地域的に孤立しており、地域レベルでの絶滅のおそれが高い個体群
5	いわてレッドデータブック -岩手の希少な野生生物(2014 年版)- 【岩手県 平成 26 年 3 月発行】	EX:絶滅 環境省RLの絶滅に相当(EX) EW:野生絶滅 環境省RLの野生絶滅に相当(EW) A:A ランク 環境省 RL の絶滅危惧 I 類に相当(CR+EN) B:B ランク 環境省 RL の絶滅危惧 II 類に相当(VU) C:C ランク 環境省 RL の準絶滅危惧に相当(NT) D:D ランク C ランクに準ずる種・優れた自然環境の指標となる種・岩手県を南限又は北限とする種 DD:情報不足 環境省 RL の情報不足に相当(DD)

1) 哺乳類

対象事業実施区域及びその周辺で確認されている種を表 3.1-13 に示す。

対象事業実施区域及びその周辺では、7目13科45種の哺乳類が確認されており、そのうち重要な種としてヤマネ、カモシカ等の22種が確認されている。

表 3.1-13 (1) 対象事業実施区域及びその周辺で確認されている種 (哺乳類)

No.	目名	科名	和名	重要種の選定基準					
				1	2	3	4	5	
1	モグラ目	トガリネズミ科	トガリネズミ						
2			ホンシュウジネズミ						
3			カワネズミ					D	
4		モグラ科		ヒメヒミズ					
5				ホンシュウヒミズ					
6				フジミズラモグラ				NT	
7				アズマモグラ					
8	コウモリ目	キクガシラコウモリ科	ニホンコキクガシラコウモリ						
9			キクガシラコウモリ						
10		ヒナコウモリ科		フジホオヒゲコウモリ					C
11				カグヤコウモリ					B
12				モモジロコウモリ					
13				クロホオヒゲコウモリ				VU	A
14				ノレンコウモリ				VU	B
15				モリアブラコウモリ				VU	A
16				アブラコウモリ					
17				ヤマコウモリ				VU	B
18				ヒナコウモリ					B
19				チチブコウモリ				LP	A
20				ウサギコウモリ					B
21				ユビナガコウモリ					B
22				コテングコウモリ					D
23	テングコウモリ					B			
24	サル目	オナガザル科	ホンドザル				LP	A	
25	ウサギ目	ウサギ科	トウホクノウサギ						
26	ネズミ目	リス科	ニホンリス						
27			ホンドモモンガ					C	
28			ニッコウムササビ						
29		ヤマネ科	ヤマネ	国天				C	
30		ネズミ科		トウホクヤチネズミ					
31				ハタネズミ					
32				ホンドアカネズミ					
33				ホンドヒメネズミ					
34				ハツカネズミ					
35				ドブネズミ					

表 3.1-13 (2) 対象事業実施区域及びその周辺で確認されている種（哺乳類）

No.	目名	科名	和名	重要種の選定基準				
				1	2	3	4	5
36	ネコ目	クマ科	ツキノワグマ					D
37		イヌ科	ホンドタヌキ					
38			ホンドキツネ					
39			ニホンオオカミ				EX	EX
40		イタチ科	ホンドテン					
41			ホンドイタチ					
42			ニホンイイズナ				NT	B
43			ホンドオコジョ				NT	B
44			ニホンアナグマ					
45	ウシ目	ウシ科	カモシカ	特天				D
合計	7	13	45	2	0	0	10	21

備考) 重要種の選定基準とカテゴリーは表 3.1-12 に示す。

資料) 「第2、4～6回自然環境保全基礎調査」(環境省自然環境局)

「いわてレッドデータブック:岩手の希少な野生生物」(平成26年、岩手県環境生活部自然保護課 編)

「安代町史 民俗編」(平成21年、安代町史編さん委員会 編)

「西根町史 上巻」(昭和61年、西根町史編纂委員会 編)

2) 鳥類

対象事業実施区域及びその周辺で確認されている種を表 3.1-14 に示す。

対象事業実施区域及びその周辺では、15 目 41 科 138 種の鳥類が確認されており、そのうち重要な種としてオオタカ、ハヤブサ等の 62 種が確認されている。

表 3.1-14 (1) 対象事業実施区域及びその周辺で確認されている種（鳥類）

No.	目名	科名	和名	重要種の選定基準						
				1	2	3	4	5		
1	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ							
2			ミミカイツブリ							
3			アカエリカイツブリ					D		
4	コウノトリ目	サギ科	サンカノゴイ				EN	A		
5			ヨシゴイ				NT	C		
6			オオヨシゴイ				CR	A		
7			ゴイサギ							
8			ササゴイ							
9			チュウサギ				NT	C		
10			アオサギ							
11			カモ目	カモ科	マガン	国天			NT	C
12					ヒシクイ					B
13					オオハクチョウ					
14	オシドリ						DD	D		
15	マガモ									
16	カルガモ									
17	シノリガモ						LP	C		
18	タカ目	タカ科	ミサゴ				NT	B		
19			ハチクマ				NT	C		
20			トビ							
21			オオタカ		国内		NT	B		
22			ツミ					C		
23			ハイタカ				NT	C		
24			ケアシノスリ							
25			ノスリ					D		
26			サシバ				VU	B		
27			クマタカ		国内		EN	A		
28			イヌワシ	国天	国内		EN	A		
29			チュウヒ				EN	B		
30			ハヤブサ科	ハヤブサ	ハヤブサ		国内		VU	A
31					チゴハヤブサ					D
32					チョウゲンボウ					D
33	キジ目	キジ科	ウズラ				VU	B		
34			ヤマドリ					D		
35			キジ							
36	ツル目	クイナ科	ヒメクイナ					DD		
37			ヒクイナ				NT	B		
38			バン					D		
39			オオバン					C		
40	チドリ目	チドリ科	コチドリ					C		

表 3.1-14 (2) 対象事業実施区域及びその周辺で確認されている種（鳥類）

No.	目名	科名	和名	重要種の選定基準				
				1	2	3	4	5
41	チドリ目	シギ科	イソシギ					
42			ヤマシギ					C
43			オオジシギ				NT	B
44			アオシギ					
45	ハト目	ハト科	キジバト					
46	カッコウ目	カッコウ科	ジュウイチ					D
47			カッコウ					
48			ツツドリ					
49			ホトトギス					
50	フクロウ目	フクロウ科	トラフズク					B
51			コノハズク					C
52			オオコノハズク					D
53			アオバズク					B
54			フクロウ					D
55	ヨタカ目	ヨタカ科	ヨタカ				NT	C
56	アマツバメ目	アマツバメ科	ハリオアマツバメ					D
57			アマツバメ					
58	ブッポウソウ目	カワセミ科	ヤマセミ					D
59			アカショウビン					C
60			カワセミ					D
61		ヤツガシラ科	ヤツガシラ					C
62	キツツキ目	キツツキ科	アリスイ					B
63			アオゲラ					
64			クマゲラ	国天			VU	A
65			アカゲラ					
66			コゲラ					
67	スズメ目	ヒバリ科	ヒバリ					
68		ツバメ科	ツバメ					
69			イワツバメ					
70		セキレイ科	キセキレイ					
71			ハクセキレイ					
72			セグロセキレイ					
73			ビンズイ					
74			タヒバリ					
75		サンショウクイ科	サンショウクイ				VU	C
76		ヒヨドリ科	ヒヨドリ					
77		モズ科	チゴモズ				CR	A
78			モズ					
79			アカモズ				EN	A
80		レンジャク科	キレンジャク					
81			ヒレンジャク					
82		カワガラス科	カワガラス					
83		ミソサザイ科	ミソサザイ					
84		イワヒバリ科	カヤクグリ					D
85		ツグミ科	コマドリ					C
86			コルリ					
87	ルリビタキ							
88	ジョウビタキ							

表 3.1-14 (3) 対象事業実施区域及びその周辺で確認されている種（鳥類）

No.	目名	科名	和名	重要種の選定基準				
				1	2	3	4	5
89	スズメ目	ツグミ科	ノビタキ					C
90			トラツグミ					
91			マミジロ					
92			クロツグミ					
93			アカハラ					
94			ツグミ					
95		ウグイス科	ヤブサメ					
96			ウグイス					
97			オオセッカ		国内		EN	A
98			コヨシキリ					D
99			オオヨシキリ					
100			エゾムシクイ					
101			センダイムシクイ					
102			メボソムシクイ上種					
103			キクイタダキ					
104			セッカ					C
105		ヒタキ科	キビタキ					
106			オオルリ					
107			サメビタキ					D
108			コサメビタキ					D
109		エナガ科	エナガ					
110		シジュウカラ科	コガラ					
111	ヒガラ							
112	ヤマガラ							
113	シジュウカラ							
114	ゴジュウカラ科	ゴジュウカラ						
115	キバシリ科	キバシリ					D	
116	メジロ科	メジロ						
117	ホオジロ科	ホオジロ						
118		コジュリン				VU	DD	
119		ホオアカ					D	
120		ノジコ				NT	D	
121		アオジ						
122		クロジ					D	
123	アトリ科	アトリ						
124		カワラヒワ						
125		マヒワ						
126		イスカ					D	
127		ウソ						
128		イカル						
129		シメ						
130	ハタオリドリ科	スズメ						
131	ムクドリ科	コムクドリ						
132		ムクドリ						

表 3.1-14 (4) 対象事業実施区域及びその周辺で確認されている種（鳥類）

No.	目名	科名	和名	重要種の選定基準				
				1	2	3	4	5
133	スズメ目	コウライウグイス科	コウライウグイス					
134		カラス科	カケス					
135			オナガ					
136			ホシガラス					
137			ハシボソガラス					
138			ハシブトガラス					
合計	15	41	138	3	5	0	27	62

備考)重要種の選定基準とカテゴリーは表 3.1-12 に示す。

資料)「第2、3回自然環境保全基礎調査」(環境省自然環境局)

「いわてレッドデータブック:岩手の希少な野生生物」(平成26年、岩手県環境生活部自然保護課 編)

「特殊鳥類生息実態調査報告書」(平成5年、岩手県環境保健部自然保護課 編)

「小型ワシタカ類生息実態調査報告書」(平成7年、岩手県環境保健部自然保護課 編)

「フクロウ科生息実態調査報告書」(平成10年、岩手県環境保健部自然保護課 編)

「野生生物保護対策事業調査報告書-イヌワシ生息状況調査-」(平成11年、岩手県環境保健部自然保護課 編)

「安代町史 民俗編」(平成21年、安代町史編さん委員会 編)

「西根町史 上巻」(昭和61年、西根町史編纂委員会 編)

3) は虫類・両生類

対象事業実施区域及びその周辺で確認されている種を表 3.1-15 に示す。

対象事業実施区域及びその周辺では、3 目 10 科 21 種のは虫類・両生類が確認されており、そのうち重要な種としてトウホクサンショウウオ、クロサンショウウオ等の 9 種が確認されている。

表 3.1-15 対象事業実施区域及びその周辺で確認されている種（は虫類・両生類）

No.	目名	科名	和名	重要種の選定基準				
				1	2	3	4	5
1	有鱗目	トカゲ科	ヒガシニホントカゲ					D
2		カナヘビ科	ニホンカナヘビ					
3		ナミヘビ科	シマヘビ					
4			アオダイショウ					
5			ジムグリ					
6			ヒバカリ					C
7			ヤマカガシ					
8		クサリヘビ科	ニホンマムシ					
9	有尾目	サンショウウオ科	トウホクサンショウウオ				NT	C
10			クロサンショウウオ				NT	C
11			キタオウシュウサンショウウオ					D
12		イモリ科	アカハライモリ				NT	
13	無尾目	ヒキガエル科	アズマヒキガエル					
14		アマガエル科	ニホンアマガエル					
15		アカガエル科	タゴガエル					
16			ヤマアカガエル					
17			トノサマガエル				NT	C
18			ツチガエル					
19		アオガエル科	シュレーゲルアオガエル					
20			モリアオガエル					D
21			カジカガエル					D
合計	3	10	21	0	0	0	4	8

備考) 重要種の選定基準とカテゴリーは表 3.1-12 に示す。

資料) 「第 4、5 回自然環境保全基礎調査」(環境省自然環境局)

「いわてレッドデータブック: 岩手の希少な野生生物」(平成 26 年、岩手県環境生活部自然保護課 編)

「安代町史 民俗編」(平成 21 年、安代町史編さん委員会 編)

「西根町史 上巻」(昭和 61 年、西根町史編纂委員会 編)

4) 昆虫類

対象事業実施区域及びその周辺で確認されている主な種を表 3.1-16 に、確認されている重要種を表 3.1-17 に示す。

対象事業実施区域及びその周辺では、8 目 57 科 348 種の昆虫類が確認されており、そのうち重要な種としてモートンイトトンボ、ウラギンスジヒョウモン等の 78 種が確認されている。

表 3.1-16 対象事業実施区域及びその周辺で確認されている主な種（昆虫類）

門名	綱名	目名	科名	種名
節足動物門	昆虫綱	トンボ目	アオイトトンボ科、イトトンボ科、ヤンマ科、オニヤンマ科、エゾトンボ科、トンボ科等	オツネイトンボ、エゾイトトンボ、オオルリボシヤンマ、オニヤンマ、タカネトンボ、ノシメトンボ等
		バッタ目	キリギリス科、バッタ科、オンブバッタ科等	ウスイロササキリ、トノサマバッタ、オンブバッタ等
		カメムシ目	セミ科、カメムシ科、アメンボ科等	エゾゼミ、クサギカメムシ、ヒメアメンボ等
		チョウ目	セセリチョウ科、シジミチョウ科、タテハチョウ科、アゲハチョウ科、シロチョウ科、ジャノメチョウ科、ヤママユガ科、ドクガ科、ヤガ科等	ダイミョウセセリ、ルリシジミ、アカシジミ、サカハチチョウ、カタテハ、アゲハ、モンキチョウ、ジャノメチョウ、クスサン、マイマイガ、ベニシタバ、ヨトウガ等
		ハエ目	アブ科、ハナアブ科等	ウシアブ、ナミハナアブ等
		コウチュウ目	オサムシ科、ハンミョウ科、ゲンゴロウ科、クワガタムシ科、コガネムシ科、コメツキムシ科、テントウムシ科、カミキリムシ科、ハムシ科等	アオゴミムシ、エリザハンミョウ、ヒメゲンゴロウ、ノコギリクワガタ、マメコガネ、サビキコリ、ナナホシテントウ、ゴマダラカミキリ、アカハナカミキリ、ウリハムシ等

資料) 「第 2、4、5 回自然環境保全基礎調査」(環境省自然環境局)

「いわてレッドデータブック:岩手の希少な野生生物」(平成 26 年、岩手県環境生活部自然保護課 編)

「岩手の蝶:第 36 回企画展図録」(平成 5 年、岩手県立博物館 編)

「岩手の蝶 2」(平成 24 年、岩手県立博物館 編)

「岩手の蝶 3」(平成 24 年、岩手県立博物館 編)

「西根町史 上巻」(昭和 61 年、西根町史編纂委員会 編)

「安代町史 民俗編」(平成 21 年、安代町史編さん委員会 編)

表 3.1-17 (1) 対象事業実施区域及びその周辺で確認されている重要種（昆虫類）

No.	目名	科名	和名	重要種の選定基準				
				1	2	3	4	5
1	トンボ目	アオイトトンボ科	コバネアオイトトンボ				EN	A
2		イトトンボ科	ルリイトトンボ					D
3			モートンイトトンボ				NT	D
4			カラカネイトトンボ					D
5		ヤンマ科	マダラヤンマ				NT	B
6			カトリヤンマ					A
7		ムカシヤンマ科	ムカシヤンマ					C
8		エゾトンボ科	エゾトンボ					DD
9		トンボ科	ハッチョウトンボ					D
10	カマキリ目	カマキリ科	ウスバカマキリ				DD	
11	バッタ目	キリギリス科	ヒガシキリギリス					C
12	カメムシ目	アメンボ科	キタヒメアメンボ					D
13		マツモムシ科	キイロマツモムシ					C
14	チョウ目	セセリチョウ科	モウセンゴケトリバ					D
15			ホシチャバネセセリ				EN	B
16			ギンイチモンジセセリ				NT	D
17			チャマダラセセリ				EN	A
18			スジグロチャバネセセリ北海道・本州・九州亜種				NT	
19		シジミチョウ科	ウラジロミドリシジミ					C
20			ハヤシミドリシジミ					C
21			キタアカシジミ北日本亜種				VU	C
22			ヒメシジミ本州・九州亜種				NT	C
23			フジミドリシジミ					D
24		タテハチョウ科	ウラギンスジヒョウモン				VU	
25			ヒョウモンチョウ東北以北亜種				NT	C
26			オオウラギンヒョウモン				CR	A
27			ゴマダラチョウ本土亜種					D
28			フタスジチョウ東北地方亜種					B
29			オオムラサキ					C
30			アゲハチョウ科	ヒメギフチョウ本州亜種				NT
31		シロチョウ科	ヤマキチョウ				EN	A
32			ヒメシロチョウ北海道・本州亜種				EN	C
33		ジャノメチョウ科	キマダラモドキ				NT	
34		カギバガ科	キボシミスジトガリバ					D
35		シャチホコガ科	クワヤマエグリシャチホコ				NT	
36		ヒトリガ科	ジョウザンヒトリ					D
37		ヤガ科	ケンモンキシタバ					D
38			ミヤマキシタバ				NT	D
39			ヒメシロシタバ				NT	
40			オオシラホシヤガ					DD
41			オオチャバネヨトウ				VU	
42			ダイセツヤガ					D
43	コウチュウ目	オサムシ科	ハヤチネヌレチゴミムシ					D
44			ウメヤルリミズギワゴミムシ					B
45			アオカタビロオサムシ					D

表 3.1-17 (2) 対象事業実施区域及びその周辺で確認されている重要種（昆虫類）

No.	目名	科名	和名	重要種の選定基準				
				1	2	3	4	5
46	コウチュウ目	オサムシ科	エゾカタビロオサムシ					C
47			ホソヒメクロオサムシ奥羽山脈亜種					D
48			ヒメクロオサムシ東北地方亜種					D
49			チビマルクビゴミムシ					D
50			シラハタキバナガゴミムシ					D
51			マヒルナガチビゴミムシ					DD
52			ゲンゴロウ科	メスズジゲンゴロウ				
53	シマケシゲンゴロウ						C	
54	エゾゲンゴロウモドキ					VU	C	
55	ケシゲンゴロウ					NT		
56	ミズスマシ科	コミズスマシ				EN		
57	ガムシ科	アサヒナコマルガムシ					D	
58	コガネムシ科	ダイコクコガネ				VU	B	
59		シナノエンマコガネ					C	
60		ヤマトエンマコガネ				NT	C	
61		オオチャイロハナムグリ				NT	D	
62	コメツキムシ科	クロツヤシモフリコメツキ					D	
63		チビヒサゴコメツキ					D	
64	ホタル科	ゲンジボタル					D	
65		ヒメボタル					D	
66	ゴミムシダマシ科	オオユミアシゴミムシダマシ					D	
67	カミキリムシ科	ミチノクケマダラカミキリ				VU	C	
68		フタスジカタビロハナカミキリ					B	
69		トウホクトラカミキリ					C	
70		ヒラヤマコブハナカミキリ					DD	
71		ヒゲジロホソコバネカミキリ					D	
72		モモブトハナカミキリ					D	
73		ベニバハナカミキリ					D	
74		ホンドアカガネカミキリ					D	
75		イガブチヒゲハナカミキリ					D	
76		ハムシ科	ベニカメノコハムシ					D
77	コウホネネクイハムシ						D	
78	アシボソネクイハムシ						DD	
合計	6	30	78	0	0	0	28	69

備考)重要種の選定基準とカテゴリーは表 3.1-12 に示す。

資料)「第2、4、5回自然環境保全基礎調査」(環境省自然環境局)

「いわてレッドデータブック:岩手の希少な野生生物」(平成26年、岩手県環境生活部自然保護課 編)

「岩手の蝶:第36回企画展図録」(平成5年、岩手県立博物館 編)

「岩手の蝶2」(平成24年、岩手県立博物館 編)

「岩手の蝶3」(平成24年、岩手県立博物館 編)

「西根町史 上巻」(昭和61年、西根町史編纂委員会 編)

「安代町史 民俗編」(平成21年、安代町史編さん委員会 編)

5) 魚類

対象事業実施区域及びその周辺で確認されている種を表 3.1-18 に示す。

対象事業実施区域及びその周辺では、8 目 11 科 31 種の魚類が確認されており、そのうち重要な種としてニホンウナギ、タナゴ等の 16 種が確認されている。

表 3.1-18 対象事業実施区域及びその周辺で確認されている種（魚類）

No.	目名	科名	和名	重要種の選定基準					
				1	2	3	4	5	
1	ヤツメウナギ目	ヤツメウナギ科	スナヤツメ北方種				VU	C	
2	ウナギ目	ウナギ科	ニホンウナギ				EN		
3	コイ目	コイ科	コイ						
4			キンブナ				VU	C	
5			ギンブナ						
—			フナ類						
6			ヤリタナゴ				NT	DD	
7			タナゴ				EN	D	
8			オイカワ						
9			アブラハヤ						
10			エゾウグイ				LP	C	
11			ウグイ						
12			モツゴ						
13			カマツカ						
14			ドジョウ科	ドジョウ				DD	
15					シマドジョウ				
16		ナマズ目	ギギ科	ギギ					
17	ギバチ					VU			
18	ナマズ科		ナマズ						
19	サケ目	サケ科	アメマス (エゾイワナ)						
20			ニッコウイワナ			DD			
21			ニジマス						
22			ギンザケ						
23			サクラマス (ヤマメ)			NT			
24	トゲウオ目	トゲウオ科	トミヨ属淡水型			LP			
25			トミヨ属汽水型			NT			
26	カサゴ目	カジカ科	カジカ			NT	C		
27			カンキョウカジカ			LP			
28			ハナカジカ			LP	B		
—			カジカ科						
29	スズキ目	サンフィッシュ科	オオクチバス						
30		ハゼ科	ジュズカケハゼ			NT			
31			ヨシノボリ属						
合計	8	11	31	0	0	0	16	7	

備考) 重要種の選定基準とカテゴリーは表 3.1-12 に示す。

資料) 「第 4、5 回自然環境保全基礎調査」(環境省自然環境局)

「いわてレッドデータブック: 岩手の希少な野生生物」(平成 26 年、岩手県環境生活部自然保護課 編)

「安代町史 民俗編」(平成 21 年、安代町史編さん委員会 編)

6) 底生動物

底生動物は、「いわてレッドデータブック:岩手の希少な野生生物」(平成26年、岩手県環境生活部自然保護課 編)、「安代町史 民俗編」(平成21年、安代町史編さん委員会 編)において貝類についてのみ生息情報が報告されている。

対象事業実施区域及びその周辺で確認されている種を表 3.1-19 に示す。

対象事業実施区域及びその周辺では、4目6科7種の底生動物が確認されており、そのうち重要な種としてモノアラガイ、カワシンジュガイ等の5種が確認されている。

表 3.1-19 対象事業実施区域及びその周辺で確認されている種 (底生動物)

No.	目名	科名	和名	重要種の選定基準				
				1	2	3	4	5
1	原始紐舌目	ヤマタニシ科	ミジンヤマタニシ					
2		タニシ科	オオタニシ				NT	
3	盤足目	カワニナ科	カワニナ					
4	基眼目	モノアラガイ科	モノアラガイ				NT	
5	イシガイ目	カワシンジュガイ科	カワシンジュガイ				VU	B
6			コガタカワシンジュガイ				CR+EN	A
7		イシガイ科	ヌマガイ					B
—			ドブガイ類					
合計	4	6	7	0	0	0	4	3

備考) 重要種の選定基準とカテゴリーは表 3.1-12 に示す。

資料) 「第4、5回自然環境保全基礎調査」(環境省自然環境局)

「いわてレッドデータブック:岩手の希少な野生生物」(平成26年、岩手県環境生活部自然保護課 編)

「安代町史 民俗編」(平成21年、安代町史編さん委員会 編)

7) 陸産貝類

対象事業実施区域及びその周辺で確認されている種を表 3.1-20 に示す。

対象事業実施区域及びその周辺では、3 目 9 科 30 種の陸産貝類が確認されており、そのうち重要な種としてキセルガイモドキ、ミヨシギセル等の 18 種が確認されている。

表 3.1-20 対象事業実施区域及びその周辺で確認されている種（陸産貝類）

No.	目名	科名	和名	重要種の選定基準					
				1	2	3	4	5	
1	アマオブネガイ目	ヤマキサゴ科	ヤマキサゴ						
2	中腹足目	ゴマガイ科	ヒダリマキゴマガイ						
3	柄眼目	キセルガイモドキ科	キセルガイモドキ					C	
4			クリイロキセルガイモドキ				NT	C	
5		キセルガイ科	オオタキコギセル					C	
6			ヒメギセル						
7			ナミギセル					C	
8			ツムガタモドキギセル						
9			チビギセル					C	
10			ミヨシギセル				VU	C	
11		バツラマイマイ科	バツラマイマイ						
12		ナメクジ科	ナメクジ						
13			ヤマナメクジ						
14		ベッコウマイマイ科	ウラジロベッコウ					C	
15			カワグチレンズガイ				NT	C	
16			クリイロベッコウ				DD	C	
17		ナンバンマイマイ科	ニッポンマイマイ						
18			イワテビロウドマイマイ					C	
19			ウロコビロウドマイマイ				NT		
20		オナジマイマイ科	ウスカワマイマイ						
21			ササミケマイマイ				DD	C	
22			オオウケマイマイ						
23			イワデマイマイ					C	
24			ムツヒダリマキマイマイ						
25			トバマイマイ					C	
26			ブドウマイマイ					B	
27			オオタキマイマイ				VU	C	
28			ヒダリマキマイマイ					C	
29			アオモリマイマイ						
30		マメマイマイ					C		
合計		3	9	30	0	0	0	7	17

備考) 重要種の選定基準とカテゴリーは表 3.1-12 に示す。

資料) 「第 4、5 回自然環境保全基礎調査」(環境省自然環境局)

「いわてレッドデータブック:岩手の希少な野生生物」(平成 26 年、岩手県環境生活部自然保護課 編)

「安代町史 民俗編」(平成 21 年、安代町史編さん委員会 編)

(2) 植物

対象事業実施区域及びその周辺に生育する植物と植生、巨樹・巨木の情報に関して、収集した文献と情報を整理した範囲を表 3.1-21 に示す。

なお、重要種の選定根拠及びカテゴリーは表 3.1-22 に示すとおりである。

表 3.1-21 収集した文献と整理範囲等

No.	文献名	整理項目				情報の整理範囲
		植生	植物相	特定植物群落	巨樹・巨木	
1	「第2～7回自然環境保全基礎調査」 (環境省自然環境局)	○		○	○	事業実施区域周辺 (図 3.1-10 の表示範囲)
2	「いわてレッドデータブック:岩手の希少な野生生物(2014年版)」 (平成26年、岩手県環境生活部自然保護課編)		○			八幡平市
3	「安代町史 民俗編」 (平成21年、安代町史編さん委員会編)		○			旧安代町
4	「西根町史 上巻」 (昭和61年、西根町史編纂委員会編)		○			旧西根町
5	「岩手県産維管束植物チェックリスト2016 第2版」 (平成28年、岩手県植物誌調査会事務局編)		○			八幡平市

表 3.1-22 重要種の選定基準及びカテゴリー

No.	重要種の選定基準	カテゴリー
1	文化財保護法(同法に基づく地方公共団体の文化財保護条例を含む) 【昭和 25 年 5 月 30 日法律第 214 号】	特天:国指定特別天然記念物 国天:国指定天然記念物 県天:県指定天然記念物 市町村天:市町村指定天然記念物
2	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律 【平成 4 年 6 月 5 日法律第 75 号】	国内:国内稀少野生動植物種 特定:特定国内稀少野生動植物種 緊急:緊急指定種
3	岩手県希少野生動植物の保護に関する条例 【平成 14 年 3 月 29 日条例第 26 号】	指定:指定希少野生動植物 特定:特定希少野生動植物
4	環境省レッドリスト 2015 【環境省 平成 27 年 9 月公表】	EX:絶滅 わが国ではすでに絶滅したと考えられる種 EW:野生絶滅 飼育・栽培下でのみ存続している種 CR:絶滅危惧 IA 類 ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種 EN:絶滅危惧 IB 類 IA 類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種 VU:絶滅危惧 II 類 絶滅の危機が増大している種 NT:準絶滅危惧 現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種 DD:情報不足 評価するだけの情報が不足している種 LP:地域個体群 地域的に孤立しており、地域レベルでの絶滅のおそれが高い個体群
5	いわてレッドデータブック -岩手の希少な野生生物 (2014 年版) - 【岩手県 平成 26 年 3 月発行】	EX:絶滅 環境省RLの絶滅に相当(EX) EW:野生絶滅 環境省RLの野生絶滅に相当(EW) A:A ランク 環境省 RL の絶滅危惧 I 類に相当(CR+EN) B:B ランク 環境省 RL の絶滅危惧 II 類に相当(VU) C:C ランク 環境省 RL の準絶滅危惧に相当(NT) D:D ランク C ランクに準ずる種・優れた自然環境の指標となる種・岩手県を南限又は北限とする種 DD:情報不足 環境省 RL の情報不足に相当(DD)

1) 植生

対象事業実施区域及びその周辺における「第 6-7 回自然環境保全基礎調査」の「現存植生図」による植生の状況を図 3.1-9 に示す。

対象事業実施区域及びその周辺は、主にブナクラス域代償植生のアカマツ群落、カスミザクラ・コナラ群落、植林地、耕作地植生のカラマツ植林、水田雑草群落、畑雑草群落など代償植生や耕作地、人工林で構成される。

2) 植物相

対象事業実施区域及びその周辺で確認されている主な種を表 3.1-23 に、確認されている重要種を表 3.1-24 に示す。

対象事業実施区域及びその周辺では、130 科 1018 種の植物が確認されており、そのうち重要な種としてはノダイオウ、タチハコベ等 197 種が記録されている。

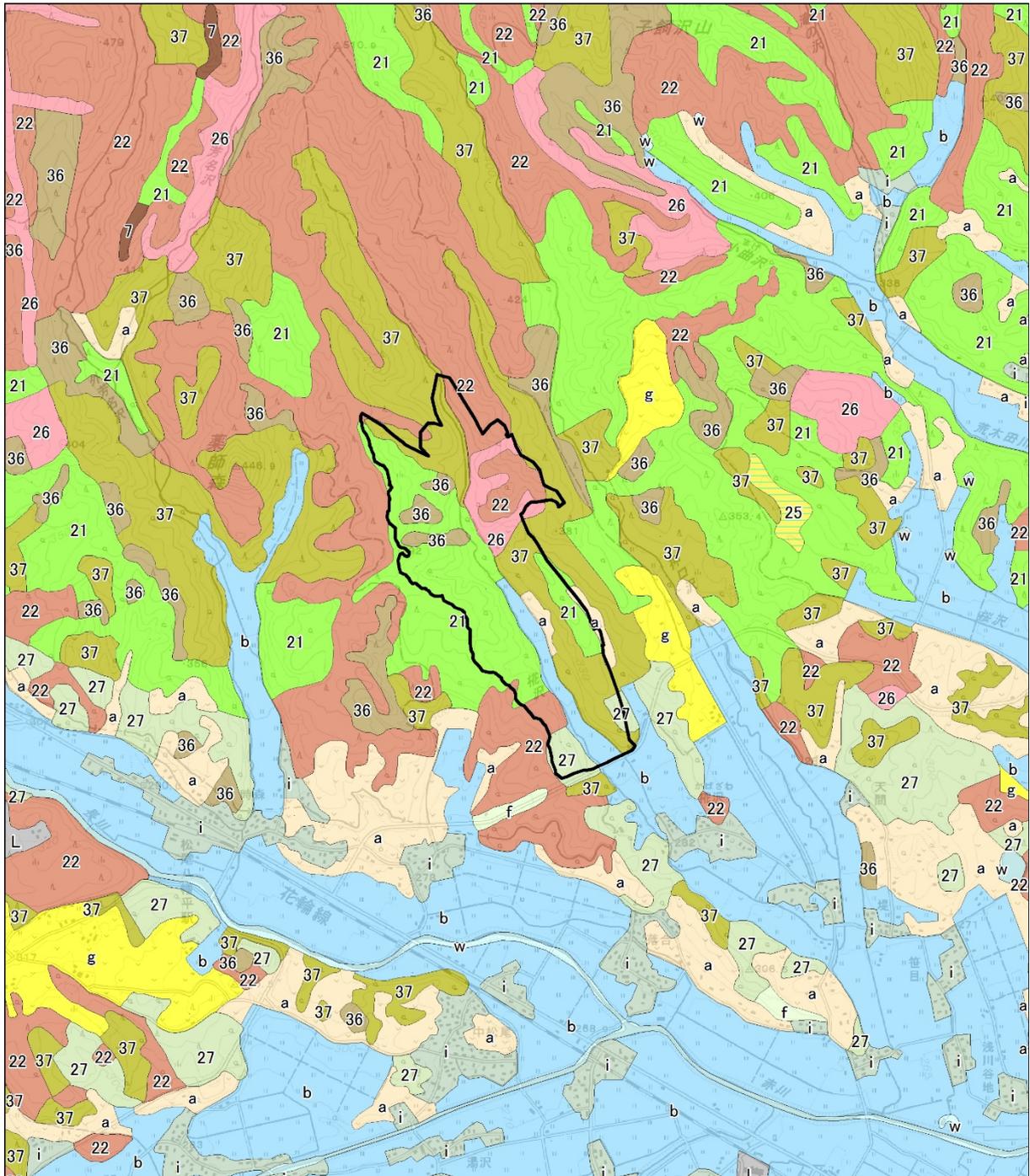
なお、平成 28 年 5 月に実施した対象事業実施区域内における概況調査において、重要な植物に選定される「ノダイオウ、ベニバナヤマシャクヤク、サクラソウ、サルメンエビネ」4 種の生育が確認されている。

3) 特定植物群落

対象事業実施区域及びその周辺における「第 2、3、5 回自然環境保全基礎調査」（環境省自然環境局）による「特定植物群落」の状況では、対象事業実施区域及びその周辺において特定植物群落は分布していない。

4) 巨樹・巨木

対象事業実施区域及びその周辺における「第 4、6 回自然環境保全基礎調査」（環境省自然環境局）による「巨樹・巨木」の状況は、図 3.1-10 に示すように「シロヤナギ」、「スギ」が分布している。



凡例



対象事業実施区域

- | | | |
|-----------------|-----------------|-------------|
| ブナクラス域自然植生 | ヤブツバキクラス域代償植生 | f 路傍・空地雑草群落 |
| 7 アカマツ群落 (IV) | 27 クリーコナラ群集 | g 牧草地 |
| ブナクラス域代償植生 | 植林地、耕作地植生 | その他 |
| 21 カスミザクラ・コナラ群落 | 36 スギ・ヒノキ・サワラ植林 | i 緑の多い住宅地 |
| 22 アカマツ群落 (V) | 37 カラマツ植林 | L 工場地帯 |
| 25 ススキ群団 (V) | a 畑雑草群落 | w 開放水域 |
| 26 伐採跡地群落 (V) | b 水田雑草群落 | |

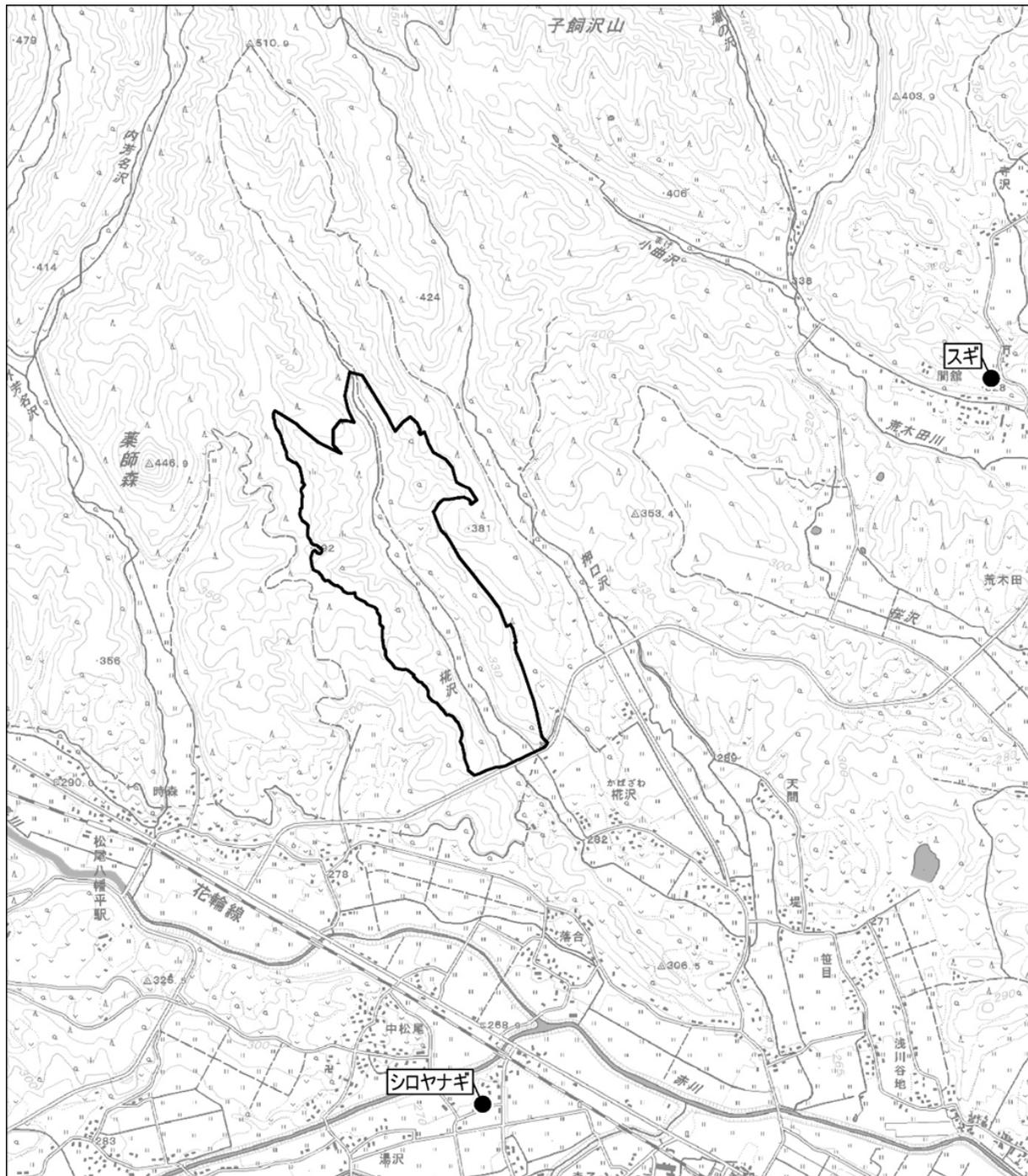


1:25,000



資料)「第6-7回自然環境保全基礎調査」(環境省自然環境局)
背景図)国土地理院「1/25,000地形図(平館)」

図 3.1-9 現存植生図



凡例



対象事業実施区域



巨樹・巨木生育地点



1:25,000



資料)「第4、6回自然環境保全基礎調査」(環境省自然環境局)
背景図) 国土地理院「1/25,000地形図(平館)」

図 3.1-10 巨樹・巨木生育地点図

表 3.1-23 対象事業実施区域及びその周辺で確認されている主な種（植物）

門名	綱・亜綱等	科名	種名
シダ植物門		ヒカゲノカズラ科、ミズニラ科、トクサ科、ゼンマイ科、コバノイシカグマ科、ミズワラビ科、イノモトソウ科、チャセンシダ科、オシダ科、ヒメシダ科、メシダ科、ウラボシ科	スギラン、マンネンスギ、トウゲシバ、ゼンマイ、クジャクシダ、イワガネゼンマイ、ホソバナライシダ、リョウメンシダ、サカゲイノデ、ミゾシダ、ハリガネワラビ、ミヤマメシダ、イッポソウワラビ、キヨタキシダ、イワオモダカ等
裸子植物門		マツ科、スギ科、ヒノキ科、イヌガヤ科、イチイ科	カラマツ、アカマツ、キタゴヨウ、ハイマツ、スギ、ミヤマビャクシン、ミヤマネズ、ハイイヌガヤ、イチイ等
被子植物門	双子葉植物綱 離弁花類	クルミ科、ヤナギ科、カバノキ科、ブナ科、ニレ科、クワ科、イラクサ科、タデ科、スベリヒユ科、ナデシコ科、アカザ科、ヒユ科、モクレン科、クスノキ科、カツラ科、キンポウゲ科、メギ科、アケビ科、センリョウ科、ボタン科、マタタビ科、オトギリソウ科、ケシ科、アブラナ科、マンサク科、ベンケイソウ科、ユキノシタ科、バラ科、マメ科、カタバミ科、トウダイグサ科、ユズリハ科、ミカン科、ウルシ科、カエデ科、トチノキ科、ツリフネソウ科、モチノキ科、ニシキギ科、クロウメモドキ科、ブドウ科、アオイ科、グミ科、スマレ科、ミソハギ科、アカバナ科、ウリノキ科、ミズキ科、ウコギ科、セリ科等	オニグルミ、イヌコリヤナギ、シロヤナギ、ケヤマハンノキ、オヒョウ、カナムグラ、ムカゴイラクサ、イヌタデ、ハナタデ、ヤマゴボウ、ミミナグサ、タカネナデシコ、ナンブワチガイソウ、ミチノクフクジュソウ、シュウメイギク、クサボタン、キツネノボタン、ネムロコウホネ、ミチノクサイシン、ナズナ、グンバイナズナ、エゾアジサイ、タコノアシ、オオダイコンソウ、シウリザクラ、カスミザクラ、ナガボノワレモコウ、ウマゴヤシ、クズ、トウダイグサ、エゾユズリハ、オニイタヤ、トチノキ、コマユミ、ナエバキスマレ、キブシ、エゾミソハギ、タニタデ、ヤナギラン、アリノトウグサ、トチバニンジン、アマニュウ等
	合弁花類	イワウメ科、リョウブ科、イチヤクソウ科、ツツジ科、サクラソウ科、エゴノキ科、モクセイ科、リンドウ科、キョウチクトウ科、ガガイモ科、アカネ科、ヒルガオ科、ムラサキ科、シソ科、ナス科、ゴマノハグサ科、タヌキモ科、ハエドクソウ科、オオバコ科、スイカズラ科、オミナエシ科、キキョウ科、キク科等	オオバスノキ、ハイハマボツス、アオダモ、ハルリンドウ、センブリ、ミツガシワ、シロバナカカメヅル、キクムグラ、セイヨウキランソウ、ジャコウソウ、イヌホオズキ、エゾシオガマ、ヤマルリトラノオ、イヌノフグリ、ムシトリスマレ、ケナシヤブデマリ、タニウツギ、ノブキ、ウサギギク、タカサゴソウ、ヤマニガナ、ミヤマキタアザミ、タムラソウ、オオオナモミ等
	単子葉植物綱	オモダカ科、ホロムイソウ科、ヒルムシロ科、ユリ科、ヤマノイモ科、ミズアオイ科、アヤメ科、イグサ科、ツユクサ科、ホシクサ科、イネ科、サトイモ科、ウキクサ科、ミクリ科、カヤツリグサ科、ラン科	ヤナギモ、ヤマカシユウ、ヤマノイモ、ノハナシヨウブ、ニワゼキショウ、ヒメノガリヤス、カモガヤ、ヒロハノウシノケグサ、ヌカキビ、クサヨシ、ヒロバスゲ、ヤラメスゲ、オオカワズスゲ、カヤツリグサ、マツバイ、ギンラン、クマガイソウ等

資料) 「いわてレッドデータブック:岩手の希少な野生生物」(平成 26 年、岩手県環境生活部自然保護課 編)

「安代町史 民俗編」(平成 21 年、安代町史編さん委員会 編)

「西根町史 上巻」(昭和 61 年、西根町史編纂委員会 編)

「岩手県産維管束植物チェックリスト 2016 第 2 版」(平成 28 年、岩手県植物誌調査会事務局 編)

表 3.1-24 (1) 対象事業実施区域及びその周辺で確認されている重要種 (植物)

No.	科名	和名	重要種の選定基準				
			1	2	3	4	5
1	ヒカゲノカズラ科	スギラン				VU	A
2	ミズニラ科	ヒメミズニラ				NT	B
3		ミズニラ				NT	B
4	イノモトソウ科	イノモトソウ					D
5	ウラボシ科	イワオモダカ					B
6	ヒノキ科	ミヤマネズ					B
7	ツチトリモチ科	ミヤマツチトリモチ				VU	B
8	タデ科	イブキトラノオ					C
9		ムカゴトラノオ					C
10		サクラタデ					C
11		シロバナサクラタデ					C
12		ノダイオウ				VU	C
13		ナデシコ科	タカネナデシコ				
14	タチハコベ					VU	C
15	ナンブワチガイソウ					VU	B
16	キンボウゲ科	センウズモドキ				VU	C
17		ミチノクフクジュソウ				NT	B
18		フクジュソウ					B
19		ヒメイチゲ					C
20		ミヤマオダマキ					B
21		エゾノリュウキンカ					C
22		ミツバノバイカオウレン					C
23		オキナグサ				VU	A
24		バイカモ					C
25		マンセンカラマツ				EN	C
26	メギ科	ナンブソウ					B
27	スイレン科	ジュンサイ					C
28		ネムロコウホネ				VU	
29	ウマノスズクサ科	ミチノクサイシン				VU	B
30	ボタン科	ヤマシャクヤク				NT	B
31		ベニバナヤマシャクヤク				VU	A
32	ケシ科	ミチノクエンゴサク					C
33		ナガミノツルキケマン				NT	
34		エゾキケマン					DD
35	アブラナ科	ハリナズナ				EN	A
36	ユキノシタ科	アラシグサ					C
37		ヒメウメバチソウ					A
38		タコノアシ				NT	B
39		ヤシヤビシャク				NT	A
40	バラ科	チョウセンキンミズヒキ				VU	C
41		カワラサイコ					B
42		ミヤマキンバイ					B
43		ヒロハノカワラサイコ				VU	C
44		クロバナロウゲ					C
45		ミチノクナシ				EN	C
46		オオタカネイバラ					B
47		サナギイチゴ				VU	C
48		ナガボノワレモコウ					B

表 3.1-24 (2) 対象事業実施区域及びその周辺で確認されている重要種 (植物)

No.	科名	和名	重要種の選定基準				
			1	2	3	4	5
49	マメ科	イヌハギ				VU	B
50	カタバミ科	オオヤマカタバミ				VU	
51	フウロソウ科	ハクサンフウロ					C
52	トウダイグサ科	トウダイグサ					C
53	カエデ科	クロビイタヤ				VU	A
54	スマレ科	キバナノコマノツメ					C
55		タカネスマレ				NT	B
56		ゲンジスマレ					B
57	スギナモ科	スギナモ					B
58	セリ科	クロバナウマノミツバ					B
59		サワゼリ				VU	A
60	イチヤクソウ科	オオウメガサソウ				NT	B
61		シヤクジョウソウ					C
62		カラフトイチヤクソウ				VU	A
63	ツツジ科	コメバツガザクラ					C
64		イワヒゲ					C
65		エゾツツジ					B
66		イワツツジ					B
67	サクラソウ科	ヤナギトラノオ					B
68		ユキワリコザクラ					A
69		サクラソウ				NT	B
70		ハイハマボッサ				NT	B
71	リンドウ科	ミヤマリンドウ					B
72		ハルリンドウ					B
73		タテヤマリンドウ					C
74		ホソバツルリンドウ				VU	B
75		イヌセンブリ				VU	B
76		センブリ					C
77		ミヤマアケボノソウ					B
78		テングノコヅチ				NT	C
79	ミツガシワ科	ミツガシワ					D
80	ガガイモ科	タチガシワ					C
81		スズサイコ				NT	B
82	アカネ科	キクムグラ					DD
83	ムラサキ科	オニルリソウ					C
84		ムラサキ				EN	A
85	シソ科	ムシヤリンドウ				VU	A
86		ミソガワソウ					B
87		ケナツノタムラソウ					C
88		テイネニガクサ				NT	DD
89		イヌニガクサ				CR	DD
90	ナス科	ハシリドコロ					C
91	ゴマノハグサ科	ホソバコゴメグサ					B
92		タチコゴメグサ					DD
93		ミヤマシオガマ					C
94		イワテシオガマ					C
95		トモエシオガマ					B
96		エゾシオガマ					C

表 3.1-24 (3) 対象事業実施区域及びその周辺で確認されている重要種（植物）

No.	科名	和名	重要種の選定基準				
			1	2	3	4	5
97	ゴマノハグサ科	ヤマルリトラノオ					B
98		ヒヨクソウ					C
99		グンバイヅル				VU	DD
100		イヌノフグリ				VU	B
101	タヌキモ科	ムシトリスミレ					B
102		イヌタヌキモ				NT	D
103	オオバコ科	エゾオオバコ					C
104		ハクサンオオバコ					C
105	スイカズラ科	リンネソウ					B
106		エゾヒョウタンボク				VU	A
107		キタカミヒョウタンボク				EN	A
108	オミナエシ科	オミナエシ					C
109	マツムシソウ科	マツムシソウ					A
110	キキョウ科	チシマギキョウ			指定、特定		A
111		バアソブ				VU	DD
112		シデシャジン					C
113		キキョウ				VU	B
114	キク科	カワラハハコ					C
115		サマニヨモギ					B
116		オオガンクビソウ					C
117		イワギク				VU	B
118		オニアザミ					C
119		ハチマンタイアザミ					C
120		ミヤマコウゾリナ					C
121		タカサゴソウ				VU	B
122		クモマニガナ					B
123		ノニガナ					C
124		カワラニガナ				NT	B
125		オオニガナ					C
126		ミヤマキタアザミ				VU	B
127		ヤハズトウヒレン					B
128		オナモミ				VU	C
129	ホロムイソウ科	ホロムイソウ					B
130	ヒルムシロ科	ホソバヒルムシロ				VU	B
131	ユリ科	スズラン					C
132		ヤマスカシユリ				NT	B
133		チシマアマナ					B
134		キンコウカ					C
135		キヌガサソウ					B
136		ヒメイワショウブ					B
137	アヤメ科	カキツバタ				NT	B
138	イグサ科	ホソコウガイゼキショウ					C
139	ホシクサ科	ミヤマヒナホシクサ					C
140	ウキクサ科	ヒンジモ				VU	A
141	ミクリ科	ホソバウキミクリ				VU	A
142		ミクリ				NT	D
143		タマミクリ				NT	B

表 3.1-24 (4) 対象事業実施区域及びその周辺で確認されている重要種 (植物)

No.	科名	和名	重要種の選定基準				
			1	2	3	4	5
144	ミクリ科	ヒメミクリ				VU	B
145	カヤツリグサ科	ヒラギンスゲ					C
146		ヤラメスゲ					A
147		ダケスゲ				VU	B
148		ヌマスゲ				CR	A
149		セイタカハリイ					C
150		タカネクロスゲ				VU	B
151		マツカサススキ					C
152		ラン科	コアニチドリ				VU
153	ミスズラン					CR	A
154	エビネ					NT	B
155	キンセイラン					VU	A
156	サルメンエビネ					VU	A
157	ギンラン						C
158	キンラン					VU	A
159	アオチドリ						B
160	モイワラン					CR	A
161	コアツモリソウ					NT	A
162	クマガイソウ					VU	A
163	アツモリソウ			特定		VU	A
164	イチヨウラン						B
165	サワラン						B
166	コイチヨウラン						B
167	カキラン						C
168	ツチアケビ						B
169	ツリシュスラン						A
170	ヒロハツリシュスラン					EN	A
171	ヒメミヤマウズラ						A
172	ミズトンボ					VU	B
173	ギボウシラン					EN	A
174	フガクスズムシソウ					VU	A
175	セイタカスズムシソウ						A
176	アオフタバラン						B
177	ミヤマフタバラン						B
178	ヤチラン					EN	A
179	アリドオシラン						B
180	サカネラン					VU	A
181	カモメラン					NT	A
182	オノエラン						C
183	タカネトンボ				VU	B	
184	ジンバイソウ					C	
185	ミズチドリ					B	
186	ツレサギソウ					A	
187	ハシナガヤマサギソウ					DD	
188	ヤマサギソウ					B	
189	オオバノトンボソウ					B	
190	オオヤマサギソウ					C	
191	ホソバノキソチドリ					C	

表 3.1-24 (5) 対象事業実施区域及びその周辺で確認されている重要種（植物）

No.	科名	和名	重要種の選定基準				
			1	2	3	4	5
192	ラン科	トンボソウ					C
193		トキシウ				NT	B
194		ヤマトキシウ					B
195		ヒトツボクロ					A
196		ハクウンラン					A
197		ショウキラン					B
合計	53	197	0	1	1	82	194

備考)重要種の選定基準とカテゴリーは表 3.1-22 に示す。

資料)「いわてレッドデータブック:岩手の希少な野生生物」(平成 26 年、岩手県環境生活部自然保護課 編)

「安代町史 民俗編」(平成 21 年、安代町史編さん委員会 編)

「西根町史 上巻」(昭和 61 年、西根町史編纂委員会 編)

「岩手県産維管束植物チェックリスト 2016 第 2 版」(平成 28 年、岩手県植物誌調査会事務局 編)

(3) 生態系

現存植生図（図 3.1-9）及び環境区分図（図 3.1-12）のとおり、対象事業実施区域及びその周辺は、谷沿いの斜面にカスミザクラ-コナラ群落やアカマツ群落等の樹林地が分布し、谷底に水田等の耕作地やススキ群団などの草地在り分布する谷戸環境が形成されている。

対象事業実施区域及びその周辺に生息する動植物の食物連鎖は図 3.1-11 に示す関係にあると考えられる。生産者は樹林地や草地在り構成する植物であり、第一次消費者はチョウ類等の草食性昆虫類、トウホクノウサギやカモシカ等の草食性哺乳類等である。第二次消費者は肉食性の昆虫類であるトンボ類が挙げられ、第三次消費者は肉食性の昆虫類であるトンボ類が挙げられ、第三次消費者はモズやキツツキ等の鳥類、ニホンリスやホンドモモンガ等の小型哺乳類、カエル類やトカゲ類等の両生類・は虫類、タナゴやカジカ等の魚類が挙げられる。上位消費者は、ノスリやオオタカ等の猛禽類、ホンドキツネ、ツキノワグマ等の中・大型哺乳類が挙げられる。

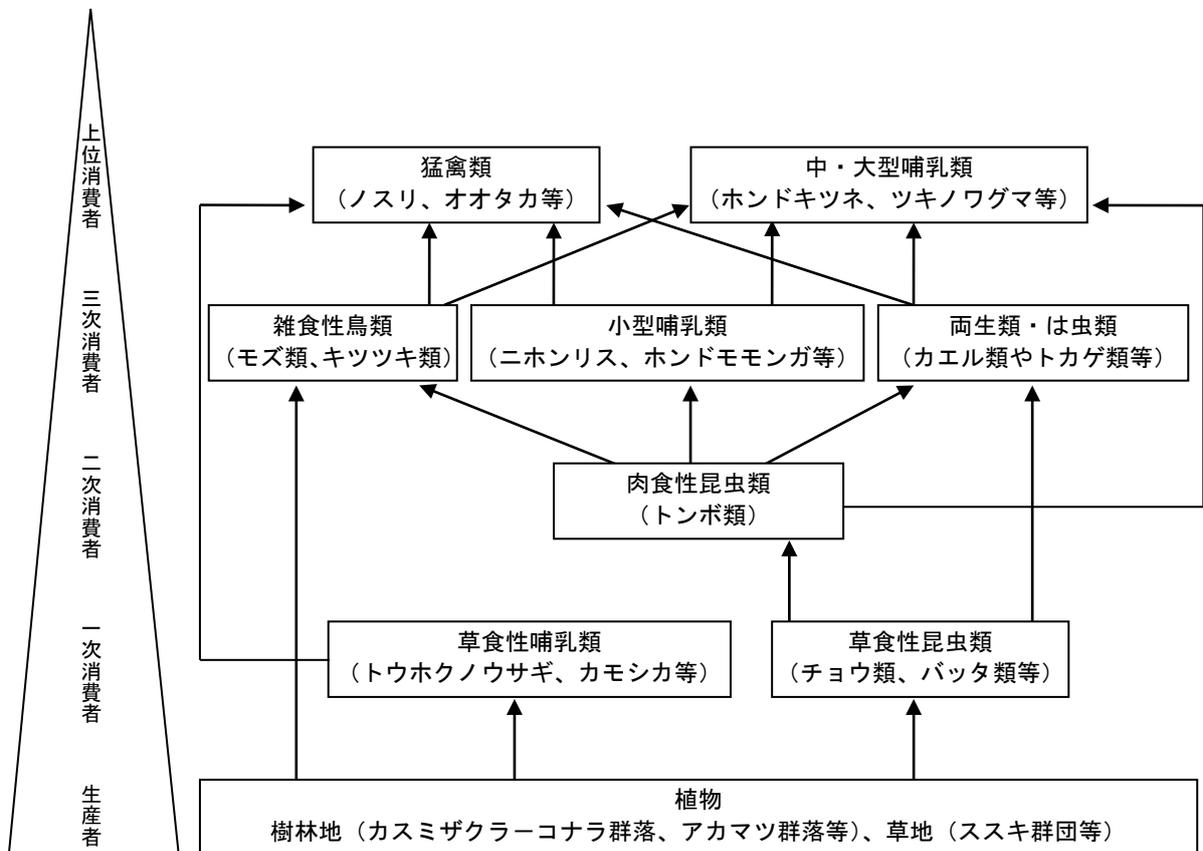
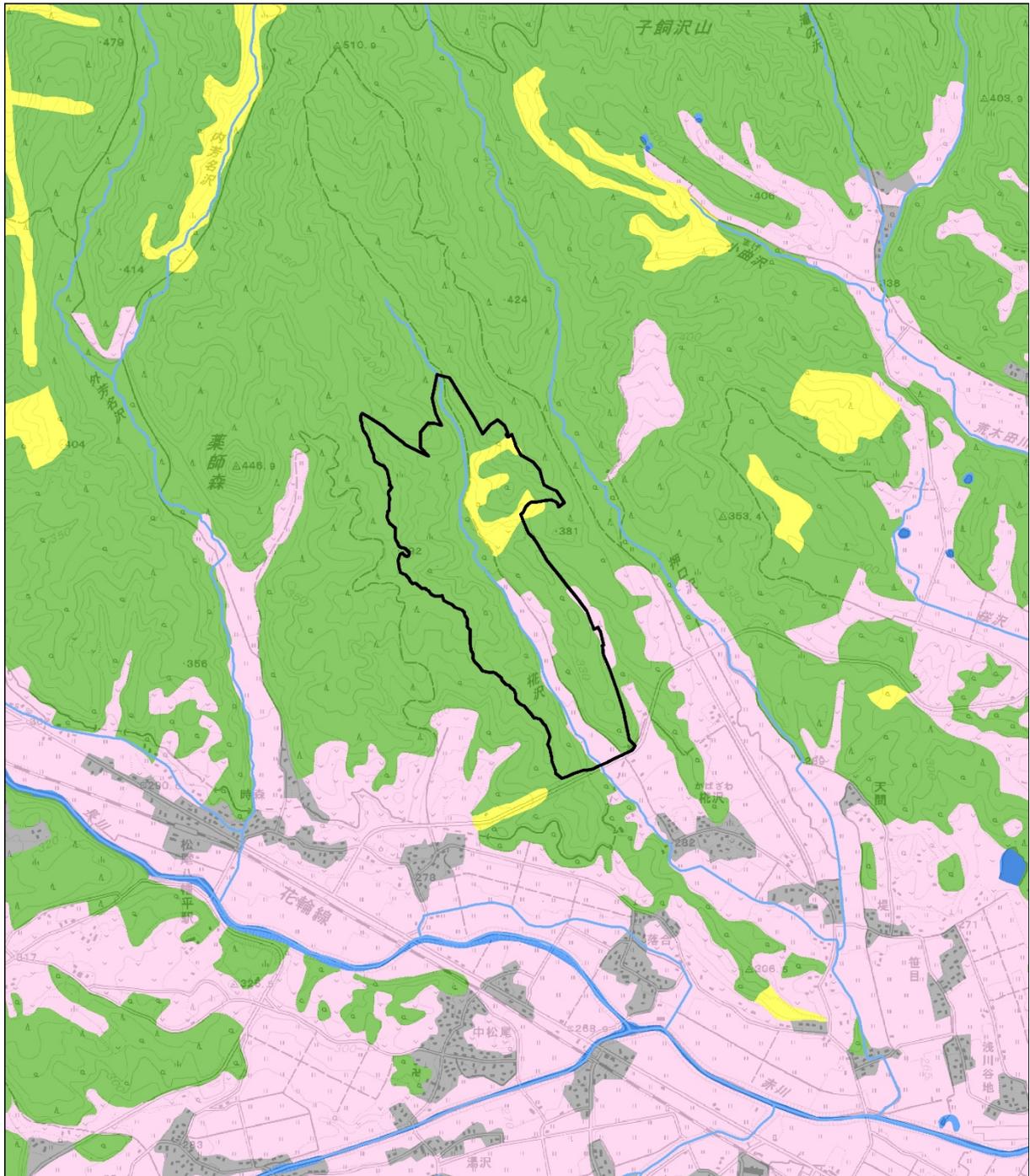


図 3.1-11 食物連鎖模式図



凡 例



対象事業実施区域

— 河川

環境区分

● 樹林地

● 草地

● 耕作地

● 市街地

● 開放水域



1:25,000



資料) 「第 6-7 回自然環境保全基礎調査」(環境省自然環境局)
背景図) 国土地理院「1/25,000 地形図(平館)」

図 3.1-12 主要な環境区分図

3.1.6 景観及び人と自然との触れ合いの活動の状況

(1) 景観

1) 主要な眺望地点

岩手県では今後も大事にしていくための美しい景観を「いわての残したい景観」として整理している。対象事業実施区域及びその周辺のいわての残したい景観（視点場）を表 3.1-25 及び図 3.1-13 に示す。

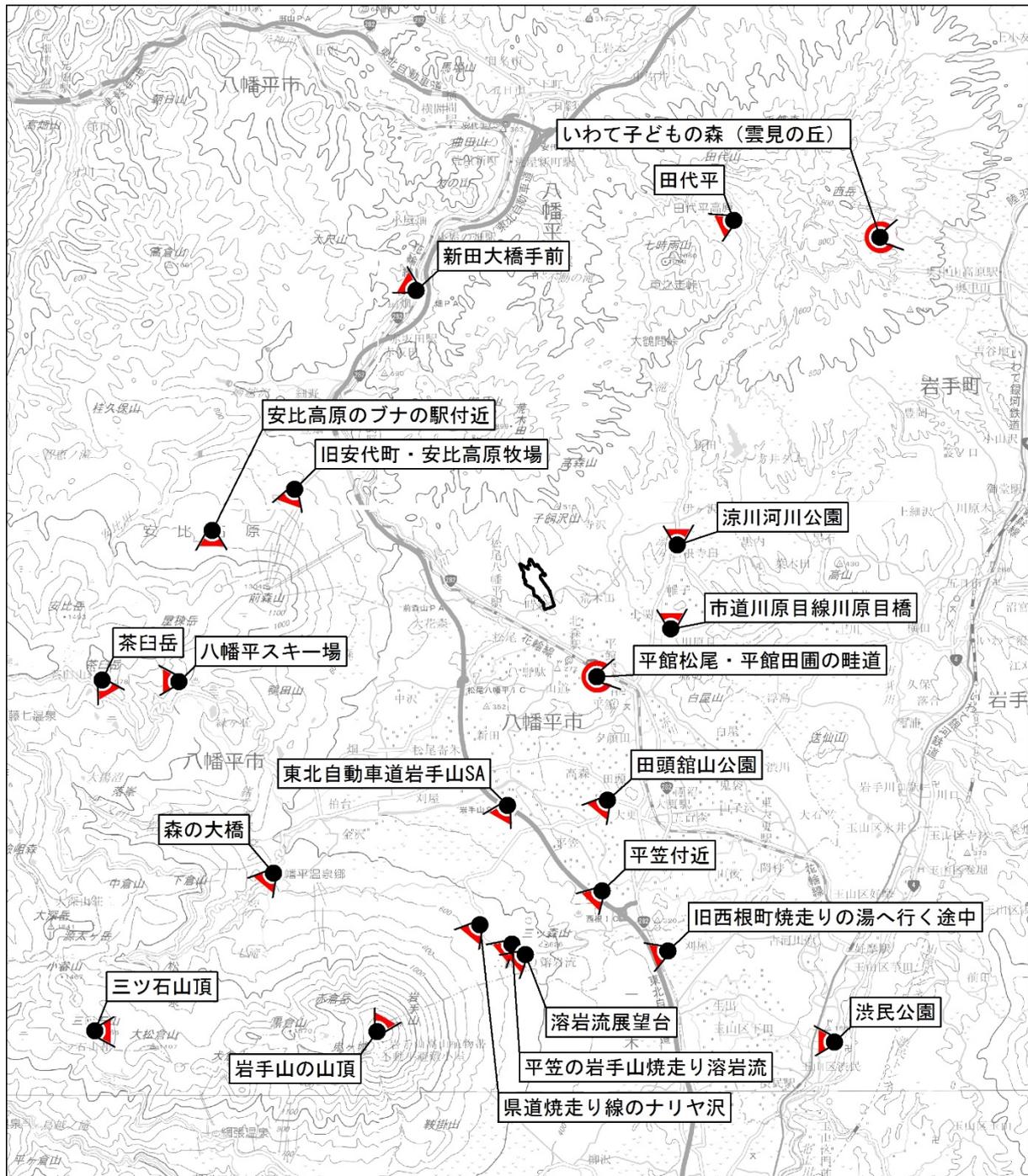
周辺の景観（視点場）のうち、対象事業実施区域の方向を望む箇所として、「平館松尾・平館田圃の畦道」、「いわて子どもの森（雲見の丘）」、「岩手山の山頂」が挙げられる。このうち、「いわて子どもの森（雲見の丘）」及び「岩手山の山頂」は対象事業実施区域より 10km 以上離れており、「いわて子どもの森（雲見の丘）」は対象事業実施区域を視認できず、「岩手山の山頂」は対象事業実施区域を視認できるものの微小に映るのみとなる。

また、対象事業実施区域周辺の不特定の人が集まる場所や日常生活上の主な眺望地点として、対象事業実施区域に最も近い集落である「柵沢集落」や「北森駅」が存在する。

表 3.1-25 対象事業実施区域及びその周辺の「いわての残したい景観（視点場）」

No.	視点場	視対象
1	田代平	田代平に集う人達と七時雨山
2	いわて子どもの森（雲見の丘）	空、山並み、大地からなる開放的な自然
3	新田大橋手前	安比川沿い紅葉
4	旧安代町・安比高原牧場	水仙畑と安比高原スキー場
5	安比高原のブナの駅付近	中の牧場の池塘
6	涼川河川公園	七時雨山と涼川
7	市道川原目線川原目橋	七時雨山と涼川
8	平館松尾・平館田圃の畦道	岩手山から八幡平の連山安比スキー場を一望でき、周囲に姫神山・七時雨山を一望
9	茶臼岳	岩手山
10	八幡平スキー場	八幡平の紅葉
11	田頭館山公園	岩手山と三ツ森山
12	東北自動車道岩手山 SA	残雪の岩手山
13	森の大橋	松川溪谷の滝
14	平笠付近	初冬の田園と岩手山
15	県道焼走り線のナリヤ沢	岩手山
16	平笠の岩手山焼走り溶岩流	焼走り溶岩流と岩手山
17	溶岩流展望台	岩手山と焼走り溶岩流
18	旧西根町焼走りの湯へ行く途中	春まだ浅き岩手山
19	三ツ石山頂	岩手山（西岩手）と広がる原生的森林
20	岩手山の山頂	岩手山頂上
21	渋民公園	石川啄木の歌碑と岩手山

資料)いわての残したい景観 (<http://www.pref.iwate.jp/toshigesui/machizukuri/23156/index.html>)



凡例



対象事業実施区域



いわての残したい景観（視点場）



1:200,000



背景図) 国土地理院「1/200,000 地形図(弘前、八戸、秋田、盛岡)」

図 3.1-13 いわての残したい景観（視点場）

2) 景観資源

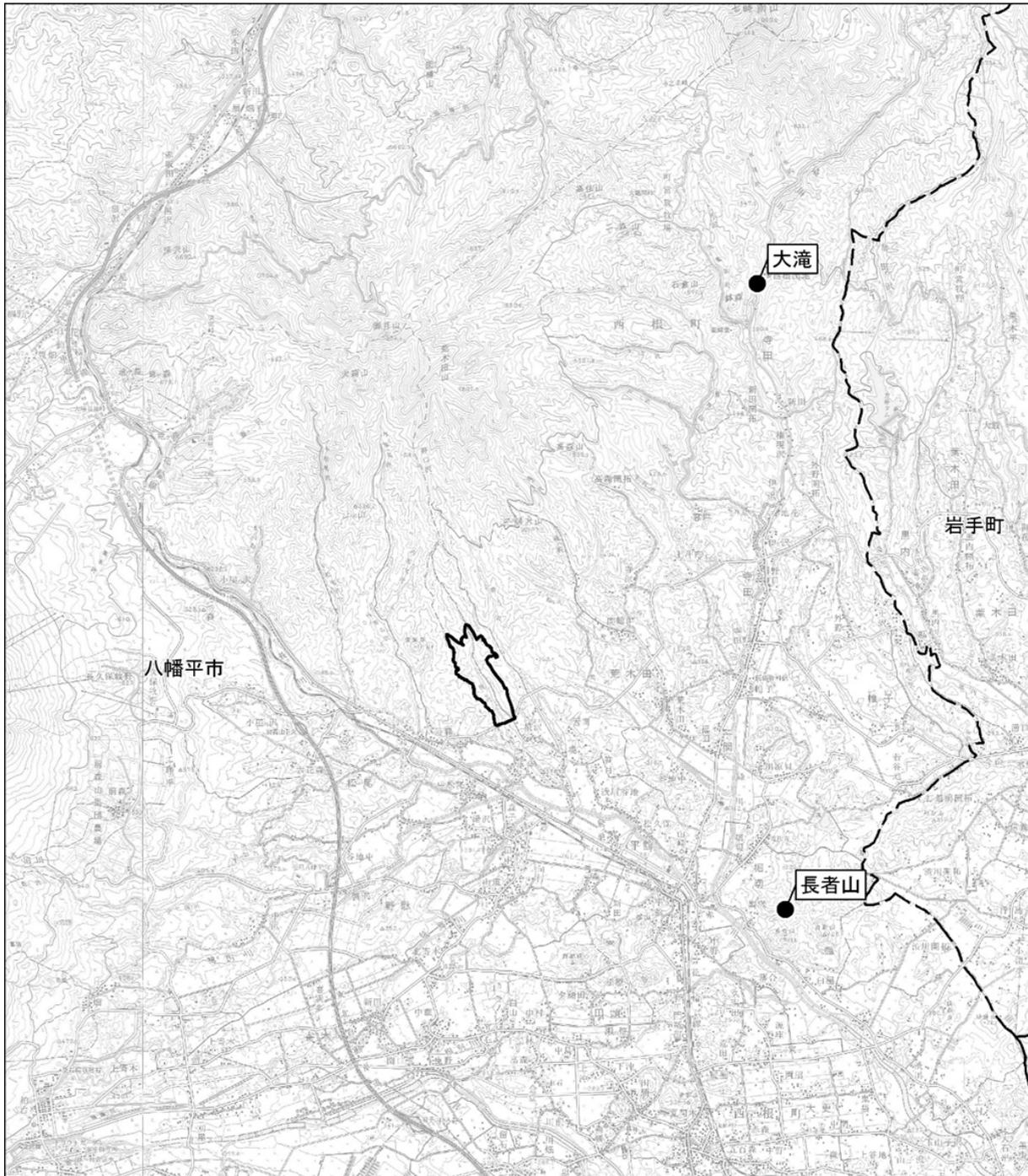
八幡平市における自然景観資源を表 3.1-26 に示す。また、このうち対象事業実施区域及びその周辺における自然景観資源を図 3.1-14 に示す。

周辺の自然景観資源として、「長者山」が対象事業実施区域から南東約 5km に、「大滝」が北東約 7km に位置しているが、いずれも対象事業実施区域から視認することはできない。

表 3.1-26 自然景観資源

区分	件数	主な自然景観資源
特定植物群落	9	焼走り溶岩流植生（西根）、松森山のアカマツ林（西根）、八幡平の湿原植物（松尾・安代）等
火山群	4	岩手山（西根・松尾）、七時雨山（西根・安代）、大深岳（松尾）、八幡平（松尾・安代）
火山	25	七時雨山（西根・安代）、岩手山（西根・松尾）、二ツ森（松尾）、八幡平（松尾・安代）等
火口・カルデラ	3	岩手山火口（西根・松尾）、田代平高原（西根・安代）、屏風尾根（松尾）
火山性高原（台地状）	1	安比高原（安代）
流れ山群	1	五百森泥流（西根・松尾）
噴泉	1	藤七温泉（松尾）
噴気口	1	藤七温泉（松尾）
非火山性高原	1	白樺野（安代）
非火山性孤峰	2	長者山、白屋山（西根）
断崖・岩壁	1	安比川（安代）
滝	9	大滝（西根）、旗滝（松尾）、不動の滝（安代）等
湖沼	47	御在所沼、御苗代湖、御釜湖（松尾）、八幡沼（安代）等
湿原	44	御苗代湿原（松尾）、八幡沼湿原（安代）等
合計	149	

資料)第 3、5 回自然環境保全基礎調査（環境省自然環境局）

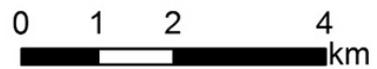


凡例

-  対象事業実施区域
-  市町村界
-  自然景観資源



1:100,000



背景図) 国土地理院「1/100,000地形図(田山、荒尾、沼宮内、八幡平)」

图 3.1-14 自然景観資源位置图

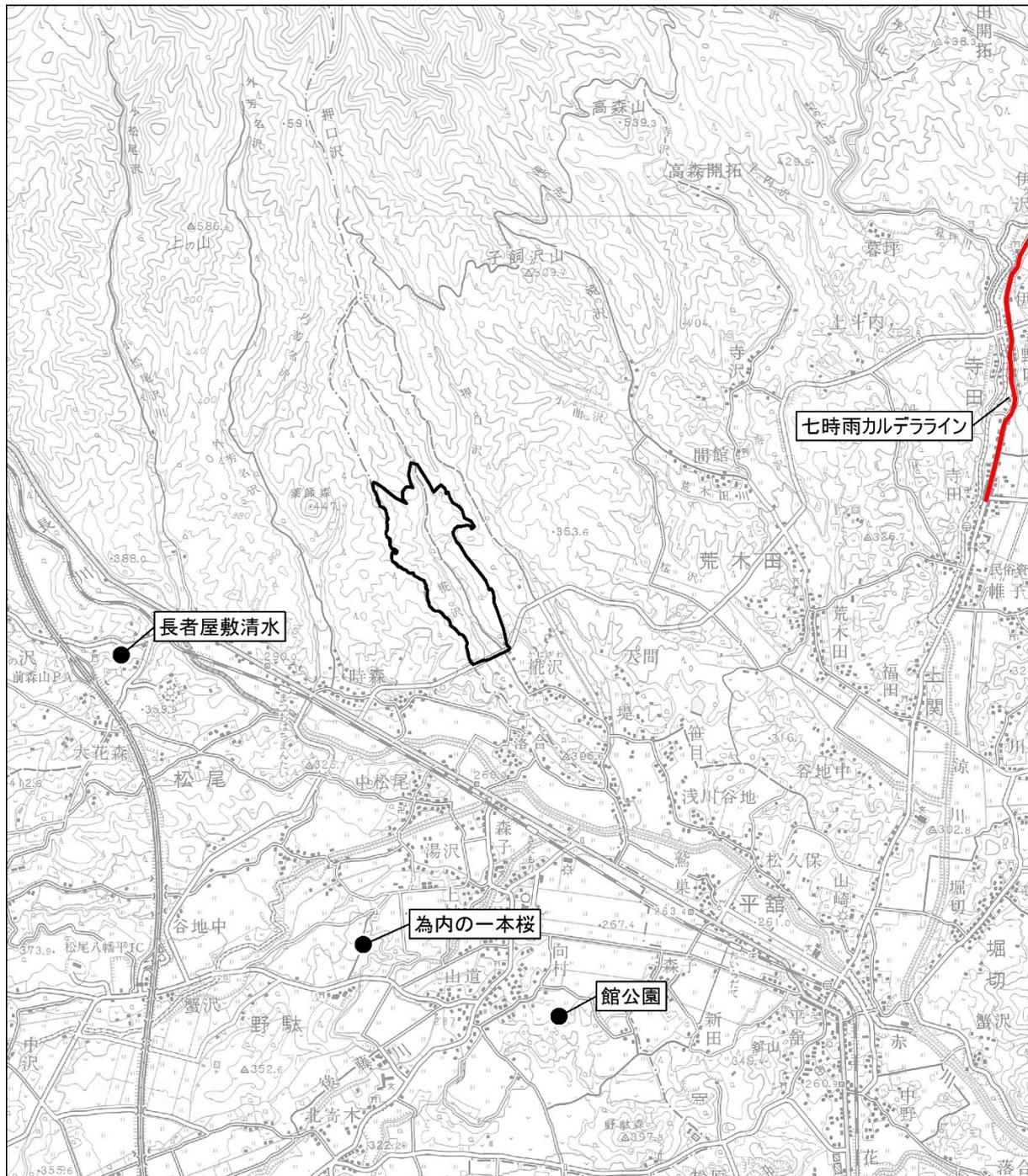
(2) 人と自然との触れ合いの活動の場

対象事業実施区域及びその周辺における人と自然との触れ合いの活動の場を表 3.1-27 及び図 3.1-15 に示す。

表 3.1-27 人と自然との触れ合いの活動の場

No.	身近な自然の名称	利用等
1	長者屋敷清水	建物周りのみどり 緑豊かな田園 池、湖沼、湧水地等の水辺
2	館公園	街角のみどり
3	為内の一本桜	街角のみどり
4	七時雨カルデラライン	観光道路

資料)岩手県自然環境保全指針(平成11年、岩手県)
八幡平市観光パンフレット類



凡例



対象事業実施区域



人と自然との触れ合いの活動の場



1:50,000

0 500 1,000 2,000
m

背景図) 国土地理院「1/50,000 地形図(沼宮内、荒尾)」

図 3.1-15 人と自然との触れ合いの活動の場位置図

3.1.7 公害苦情の状況

対象事業実施区域のある八幡平市での平成 21～平成 26 年度における公害苦情件数を表 3.1-28 に示す。典型 7 公害以外の公害に関する苦情が多い傾向である。

表 3.1-28 過去 6 年間における公害苦情件数（八幡平市）

種類 年度	典型 7 公害（件）							典型 7 公害 以外（件）	合計 （件）
	大気汚染	水質汚濁	土壌汚染	騒音	振動	地盤沈下	悪臭		
平成 21 年度	4	9	-	1	-	-	1	24	39
平成 22 年度	1	-	-	2	-	-	3	23	29
平成 23 年度	2	7	-	-	-	-	2	6	17
平成 24 年度	5	1	-	2	-	-	2	8	18
平成 25 年度	2	2	-	3	-	-	1	4	12
平成 26 年度	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	14	19	0	8	0	0	9	65	115

資料)岩手県統計年鑑（平成 21～26 年度）